



# イボガの未来：中央 アフリカからの展望

イボガ・コミュニティ・エンゲージメント・イ  
ニシアチブ

フェーズ II レポート

2020年12月



ICEERS

によるプロジェクト。

国際民族植物教育研究サービスセンター(ICEERS)

プロジェクトリーダー

Ricard Faura, PhD

Andrea Langlois

文化アドバイザー

ヤン・ギニョン、ユーク・オピアン・ポワトヴァン、シュスター・シュトゥルベルト、ウーヴェ・マース博士、ライラ・ペガ

ICEERS 科学、法律、技術アドバイザー

Benjamin De Loenen、José Carlos Bouso 博士、Genís Ona。

エディター

エリック・スウェンソン

フォトグラファー

リカード・ファウラ、ウヴェ・マース

グラフィックデザイン

Àlex Verdaguer

2020 年12 月

詳細やお問い合わせは、メールでお願いします。

**[iboga@iceers.org](mailto:iboga@iceers.org)**



Attribution

CC BY

[www.iceers.org](http://www.iceers.org)

## とのコラボレーションで...

このプロジェクトは、[Blessings Of The Forest](#) の貴重な協力により実現しました。[Blessings Of The Forest](#) は、多くの現地訪問を企画し、重要な情報提供者とのインタビューをアレンジし、ICEERS チームと撮影クルーに同行しました。Ebando とともに、彼らは寛大にも専門知識とネットワークに貢献し、文化的なアドバイザーとして欠かせない存在となりました。また、ガボンの現地視察の際に一緒に行動したドキュメンタリー作家のルーシー・ウォーカーとその制作チームの貴重な協力も、このプロジェクトのためになりました。

## ありがとうございます...

このプロジェクトが実現したのは、多くの方々のご厚意により、以下のような合唱団を作ることができたからです。そのすべての方々に、心から感謝申し上げます。  
アルファベット順です。

アンブロワジーヌ・マネンゴ [霊能者、ミコディ]、アリストイッド・ヌゲマ [BOTF ガボン事務局長]、ババ・デニス [ドキュメンタリーカメラマン]、ムバンバ・ジュリエヌ [霊能者、ミコディ]、バヨイ・デボラ [霊能者、コミ]、ピシ・アピオケ、ピタ・オーガスチン [霊能者、ミコディ]。ピエンディ・マガンガ・ムサブー [ガボン政府農業大臣]、ブランディーヌ・アケンデンゲ [リールヴィル健康科学大学教授]、ソグエ・マドレーヌ [霊的母、ミコディ]、クリストフ・マセリン・ヤヤ [霊的父、ムベン・ンタム]。デヴィッド・ムブスー [大統領顧問・映画監督]、デヴィッド・ナシム [BOTF CIC 共同ディレクター]、アクーマ・ヌロ - ママン・デルフィーヌ [Ebyeng - A2E]、ディアンヌ・ディテング [Ebando]、ジョージ・カムグア [オーディオ技師・リールビル]、アンリ・ポール・ブーロー [元局長、IPHA-METRA]、エルヴェ・オンヴァ [IDRC アフリカコーディネーター]、ヒレル・マカヤ・パパ・ムニー [霊父、イタマンヘ]、ユグ・オビアン・ポワトヴァン・タタヨ [霊父、エバンドーディレクター]、ユベール・ブレット・エリー・ヌロー・パパ・エリー [霊父、エビエン。ジャン・フランソワ (霊長、マンジ)、ジャンネット・ツォノー (マバンジ・ミコディ)、ジャン・ノエル・ガシタ (薬学者、ミコディ)。BOTF 名誉会長]、**Jean-Moise Mouirou - Makonza** [Spiritual Father, Issica], **Jean-Paul Aragon** [Forest Management, Ebando], **Julian Cautherley** [Film Producer], **Koundi Ermine** [Mabandzi Mikodi], **Daniel Laoundé Gensdedieux - Tata Rekako-** [Spirit Father, Komi], Laura Soriano "Akuavili" [Mabandzi Mikodi]。リー・ホワイト (ガボン政府水・森林大臣)、ライラ・ベガ (ONCA ディレクター)、ロン・ブーガベ・ジャニン (霊母ミコディ)、リュック・マトット (コンサベーション・ジャスティスディレクター)、ルーシー・ウォーカー (映画監督)、マガメ・ヴィンセント・レカド (霊父イシカ)、ママンカシ (霊母ミトネ)、ママン (Maman) ルーシー・ラ・クロッシュ [エバンドー]、マルセル・ムボンバ [ピグミスポークスマン、エバンドー]、

マ・セリーヌ [エビオン]、マリ・クレール・エヤン・ムベン・ンタム [霊母・ムベン・ンタム]。マリウス・オッセイエ [ブウィティ・ハーピスト]、ムバ・オバメ・ティエリー [エビエン・ブウィティ・ハーピスト]、ムメ・ゴマ、ムメ  
**N.デボラ** - ママン D [霊母ムンバヤノ]、モンコンゴ・ゴツツ・カボヤ、ムアンダ・シャルル [族長・ミトネ]、ムイエブー・テレーズ [霊母・ミコディ]、ムスー・ジャンネツテ [スピリチュアル・マザー、ミコディ]、ノンゴ・ヴァレンタイン [スピリチュアル・マザー、ミコディ]、ムクンブ・マヨス [スピリチュアル・ファーザー、ミコディ]、ピエール・ムバナ [ピギー・ハーブ奏者 & ]。ハンター、ミコディ]、ローハン・ナルセ [アドバイザー・イボガ]、サム・カーン [映画プロデューサー]、シモン・ピエール・オボノ [霊父、ラ・ハーブ]、ステファニー・ムサンダ・ママン・ジェジェ [霊母]、シュスター・ストルベルト [心理学者 & マバンドジ・シスター]、ウーヴェ・マース [小児科医]、ヤン・ギニオン [共同監督、BOTF]、ヨンゾ・ムエツ [霊母、ミコディ]。

## 奉納...

本報告書は、何世代にもわたってイボガを管理してきたガボンのブウィティ・コミュニティに捧げます。人類のために保存されてきたこの贈り物を、私たちが認識し続けることができますように。互恵関係が、地域、民族、植物の関係の原動力となりますように。

# イボガの未来：中央 アフリカからの展望

イボガ・コミュニティ・エンゲージメント・イ  
ニシアチブ

フェーズ II レポート

## 目次

序文	5
第2 フェーズの概要	8
集合的なビジョンを活用する	9
志望動機	10
エグゼクティブサマリー	13
メソドロジー	17
所見	20
ガボンの事実	22
ザ・スピリット	25
プラント	32
市場、規制、科学	47
最後に一言	58
書誌・脚注	60

# 序文



## 前書き

ガボンでは、そしてブウィティに入門した人々の間では、自己紹介は、有意義な交流と正しい関係の基礎を築くための尊敬の行為である。自己紹介はまた、何よりも、私たちが受けたサポートや先生を呼び寄せ、自分が話す場所を共有し、先祖代々の霊的な知識形式を尊重する方法でもあります。このような理由から、またガボンのスピリチュアルリーダーたちはこの文章の重要な読者であることから、私たちはまず自己紹介という形式をとることにします。

私の名前はリカルド・ファウラです。スペインのカタルーニャ地方、バルセロナ出身です。私のコンボは Aguélégué で、私の霊的母のそれは Anevikoa です。コゲ・マドレーヌとしても知られる彼女は、2019年9月にミーモゴのミコウディで私をマバンドジの儀式にイニシエーションしてくれた人です。コゲは、ツォゴ族とサンゴ族の8人の霊的母とともに、4泊5日の儀式でイニシエーションを行った。

ガボンでの7週間の滞在中、私は光栄にも、ガボン南部と北部の様々なブウィティの伝統から数十人のスピリチュアルリーダー（Ngangas と Nimas）と話をする機会に恵まれました。彼らは時間と忍耐を惜しまず、イボガとブウィティが彼らにとってどのような意味を持つのか、植物とその儀式的使用に関する現状についての見解、そしてガボンのコミュニティの将来への願いを、彼ら自身の言葉で語ってくれました。彼らは私たちに、このことを世界に発信することを明確に許可してくれました。そのため、まず、深い精神性を持ち、それぞれのコミュニティでヒーラー、カウンセラー、リーダーとして精力的に活動しているすべての女性や男性に、深い敬意と賞賛、そして感謝の気持ちを表すことが最も重要であると思います。

また、インタビューに快く応じてくださった閣僚や政府関係者、市民社会の代表者、企業関係者、バンドジやヴァイルラゴワールといった方々にも感謝いたします。

そして私の名前はアンドレア・ラングロワです。私はカナダのブリティッシュコロンビア州ビクトリアに住んでおり、エスキマルトとソンヒーズのファースト・ネーションに属するレクウンゲン語族の未許可の伝統的領土に住んでいます。私はこのプロジェクトの共同リーダーであり、その方法論の基礎作り貢献し、この報告書の執筆に協力した。ブウィティに入門したわけではありませんが、イボガや他の植物の先生から伝授された貴重な知識に奉仕することに尽力していることは共通しています。私は、起きている時も夢を見ている時も、植物の導きに感謝しています。この報告書で共有された視点を、より多くの人々に伝えることをサポートできることを光栄に思います。

私たちは、いくつかの方法論を決定しましたが、最も重要なことは、ガボンでインタビューした人々の多様な視点を提示するために、質的アプローチを適用することでした。質的研究の目的は、一般的な人々の代表を求めるのではなく、むしろ深い意味や共有された意味を表面化させることに焦点を当てることです。したがって、その焦点は測定から離れ、代わりに理解することに集中する。この意味で、質的研究は代表的であるかのように見せかけるのではなく、むしろ重要であるかのように見せるのです。したがって、以下の文章は、ガボンの多様な声を秩序立て、解釈し、織り成すものである。読者の皆様には、以下の内容をガボンの現実を文字通りに表現したものとして解釈するのではなく、意味の地図、ガボンのアクターに声を与え、同国におけるイボガの状況について一般的な理解を深めることを目的とした解釈的ストーリーとして解釈していただくようお願いします。

インタビューした賢人たちの言葉を翻訳し、通訳し、簡潔に伝えるという大きな責任を前にして、私たちは心から謙虚になり、通訳による誤訳の可能性があることをあらかじめおわびしたいと思います。

2019年9月から10月にかけて、ガボンで調査を実施しました。このフィールドワークの目的は、個人やコミュニティの声を記録することであり、個人的な

イボガとの関係が、コミュニティの中で、自然や精神的な環境と、そしてグローバルな社会や国際市場と、どのように構築されているのかを理解するために、イボガとの体験が必要です。この視点には、方法的な限界があることを認識しておくことが重要である。そもそも、互いに関わり合い、コミュニケーションをとるコミュニティ間の文化的距離が広がれば広いほど、相互理解という課題は大きく、複雑になる。この場合、このテキストの著者は、心理学、人類学、コミュニケーション、精神作用物質、マスタープランツなどの高度な専門的・学術的訓練を受けた、ヨーロッパと北米の文化的背景を持つ白人男女である。私たちの世界における立ち位置と、私たちが話を聞いた中央アフリカの情報提供者の立ち位置との間に現れる理解への挑戦は、文化的・概念的なレベルで、まったく異なる象徴的世界の間で翻訳プロセスを確立することを必然的に意味する。

また、純粋に言語的なレベルでも、深く必要な翻訳のプロセスが行われたことも特筆すべき点である。ガボンでインタビューした人々は、ピグミー語やバンツ語（ミツゴ、マサンゴ、ファン、ブヌなど）を母国語としていましたが、私たちは植民地語として採用されたフランス語でコミュニケーションをとっています。ICEERSの国際チームの社内言語は英語とスペイン語であり、主要なフィールドリサーチャーである著者の母国語は、同じロマンス語であるカタラン語です。文化的、象徴的、言語的な翻訳という重要なプロセスは、それゆえに挑戦であり、今回のような異文化間の読解に取り組む際には、常に考慮しなければならない限界を提示するものである。

象徴的な翻訳と言語的な翻訳のギャップを縮めるために、ガボンでブウィティに関わる長い歴史を持つ数人のヨーロッパ出身者の貴重な協力を得ることが出来たのです。ヤン・ギニョン（BOTF 共同ディレクター、異文化交流アドバイザー）、ユーグ・オビアン・ポワトヴァン（Ebando と Nima の共同創設者）、シユスター・ストルベルト（Bwiti の研究者、憑依トランスの専門家）、ウヴェ・マース博士（Bwiti の著者、ICEERS 前会長）に心から感謝します。彼らとの長く複雑な対話は、ガボンの霊的・一般的な女性や男性との対話の多くを発展させ、ニュアンスを与えるのに役立った。

このような制約があるにもかかわらず、私たちがこの報告書の執筆に専念したのは、この取り組みによって、ガボンのイボガ・コミュニティの状況や要望を読者にもっと理解してもらいたいと心から願っているからです。そして、このようなガボンの声を国際的な対話の場に反映させ、国際的な提案に反映させることが、私たちの目的です。最後に、私たちは、イボガに対する相互接続されたグローバルなアプローチを開発するには、イボガやその活性成分から利益を得るすべてのコミュニティがこの関係の利益を共有できるように、尊敬と互恵性に基づいた基盤を確立することが必要だと考えています。

ル・セレブル・ムエニがリーブルヴィルのコミュニティに対して言うように、"言葉は精神である"。ここに紹介する言葉が、イボガの精神、ブウィティの精神、そしてコミュニティの精神を尊重するものであることを、私たちは心から願っています。

オン・エスト・アンサンブル

リカル・ファウラ、アンドレア・ラングロワ

2020年12月

## フェーズ2の概要

このプロジェクトは2つのフェーズで展開され、他の成果として、3つの報告書が作成されました。フェーズ1（2018-2019）の目的は、イボガ/イネに関する国際コミュニティや国際的なアクターと関わり、現在の重要な問題を評価し、集合的なビジョンを策定することでした。国際社会の声や意見を収集するために、質的手法（個別インタビュー、フォーカスグループ、専門家対話セッション）と量的手法（英語、スペイン語、フランス語、ポルトガル語の閉じた質問と開いた質問による調査）が展開され、組み合わせられました。この調査は、主にオンラインとビデオ会議によって行われ、5つの大陸にいる人々やコミュニティとの接触を可能にしました。

フェーズ1を進める中で、ガボンのコミュニティやアクターの声を取り入れる必要がある一方で、それは私たち自身がガボンに赴き、現地でデータを収集しなければ不可能であることが判明しました。そこで、プロジェクトのフェーズ2（2019年～2020年）が計画され、その調査は、ガボンのイボガに関わるさまざまな現地アクター（スピリチュアルヒーラー、活動家、政策立案者、プウィティ施術者、科学者など）が参加できるように、現地訪問によって実施されることになった。この場合、エスノグラフィック・インタビュー、半構造化デプスインタビュー、参加者観察など、厳密な質的手法が採用された。この方法論は、ガボン、そして世界におけるイボガの現在と未来に対する展望やビジョンを収集することができ、この文脈に適していた。

この2期にわたるプロジェクトから、3つのレポートが生まれました。

**[1]** [国際社会から見たイボガ/イネに関するビジョン。フェーズ1 報告書。](#)

**[2]** **イボガの未来。中央アフリカからの展望。**フェーズ2 報告書（本編）。

**[3]** **イボガを前進させるための道筋を描く。結論と提言の報告書。**

いずれのフェーズレポートにも、「結論」のセクションはありません。結論と勧告は、この名称の報告書に記載されています。フェーズレポートには、将来の展望とビジョンのリストがあり、その後に関連するデータセットについて説明し議論する「一般的所見」があります。



# 集合的な ビジ ョンを活用する



## 総合的なビジョンの活用

見えない道歩くのは大変なことです。集合的なビジョンは、コミュニティのリーダー、ビジョナリー、実務家、政策立案者が未知の地形を進む際に、北極星のような役割を果たすことができます。たとえ、その道がまだ完全に照らし出されていなくても、未来に目を向けることができます。集合的なビジョンを策定するためには、ガボンのコミュニティのさまざまな部門に存在する知識を活用する必要があり、参加してくれたすべての人に感謝します。

未来への願望はアスピレーションであり、これを構築するために、ガボンでインタビューした 56 名の方々の視点を参考にしています。10 年後の未来はどうなっていたいですか？と質問し、その回答をテーマやカテゴリーに分類しました。そして、その回答を翻訳・統合しました。その願望は、ビジョンという形で表現され、思い描いたことはすでに実現し、起こっていることなので、現在進行形で表現されています。それは、すでに存在している未来から、やがて過去になるであろう現在へと語りかける、交響曲のような声の集合体である。夢想、探求、グループ化、翻訳、合成という質的なプロセスの結果、以下の 7 つの抱負が生まれました。

## 志望動機

### 1. ガボンのイボガに関するすべての行動は、聖なる森の再生という共通のビジョンに基づいています。

- "地域社会と国際社会は、自然の責任ある管理についてビジョンを共有しています。ガボンの森林とその豊かな生物多様性は、地元の人々にも外国人にも、母なる地球の神聖な場所として、大切にされ、尊敬されているのです。イボガは、この活気ある生態系の本質的な一部として評価され、尊敬されています。
- "多様な動植物、きれいで豊かな水、共有資源を持つ森林の価値について、ガボンの人々の意識が高まり、再生に寄与する取り組みが始まっています。
- "ガボンの人々、行政機関、民間企業が協力して、森林資源を持続可能な方法で管理し、将来の世代のためにその再生と保護を保証します。イボガの持続可能性は、共有の責任なのです。

### 2. ガボン政府は、倫理的で持続可能なイボガ市場の発展のための国家戦略を実施しています。

- "ガボン政府は、イボガの再生、研究、再評価のための国家戦略を策定し、実施しています。この戦略により、国内（特に都市部）での儀式用や国際市場への供給用に、高品質で追跡可能なイボガを大量に生産することが可能となりました。
- "インフラが整い、イボガインなどイボガ由来の製品がガボン国内で生産され、地元住民の雇用と地域経済への貢献がなされています。これらの製品の販売で得た利益の一部は、伝統的なイボガコミュニティに還元されます。
- "他の国々はガボンの戦略から学び、イボガの倫理的な市場をサポートするための政策や規制を導入しています。

---

### 3. 国際貿易がもたらすブウィティ族のコミュニティ

- " イボガの理想的な未来とは、イボガとそれを取り巻く神聖な実践が、ガボンの伝統的なコミュニティの精神的・経済的解放に貢献することです。この未来は、イボガの価値が広く認識され、これらの教えと実践を管理してきたコミュニティ、特にピグミー民族とブウィティ・コミュニティに敬意を表することで築かれます。
- "ガボンのスチュワードとスピリチュアルコミュニティを尊重することで、イボガ（とイボガイン）の国際的な関心から得られる利益を、継続的かつ公平に共有することができるのです。伝統的なコミュニティへの利益分配のモデルは、ナ・ゴーヤ議定書に導かれ、規制、倫理、公正なものである。
- " この倫理的取引の規制モデルの中で、国際的な支援は、国内外の市場に供給することを目的としたガボンのイボガプランテーションの開発に寄与しています。

---

### 4. ガボンは、癒しと伝統の知恵の場として認識されている

- " ガボンは、癒しと伝統的な知恵の聖地とみなされています。この評価は、イボガという植物とその伝統的な使用法を認識するだけでなく、ガボンの精神的・伝統的な医療行為に見られる豊かで多様な知識を認めることにまで及んでいます。
- " ガボンでは、ブウィティの習慣と関係のない人も含め、すべての非ガボン人を歓迎し、伝統的な先生やヒーラーからイボガについて学びます。ガボンを訪れるすべての旅行者は、植物と地元の文化に敬意を払う方法を教わり、自分自身のスピリチュアリティを理解するようサポートされます。このアプローチは、イボガを伝統的な知識体系に再統合し、世界と共有するものが、単にイボガ植物から得られる物理的な製品ではないことを保証するものです。
- " このような尊敬と認識が深まることで、イボガを使った実践が世界の意思決定の場で身近になり、評価され、人類の大きな問題の解決に役立つ貴重なツールとなる未来が待っています。

---

### 5. ガボンをはじめ、世界で尊敬されるブウィティ

- " ブウィティに対する拒絶反応や汚名がなくなり、ガボン社会はブウィティやその他の精神的伝統を高く評価するようになりました。イボガの伝統と遺産は、祝われ、保護され、世界と共有されるべき文化的宝物として、心から評価されています。
- "Bwiti の国際化では、地域の儀式やセレモニーを共有するためのプロトコルが尊重されています。精神的な母や父から、精神的な用途や伝統に関する明確で最新の情報を共有するための仕組みがある。国際的なブウィティのコミュニティに関する情報は、ガボンの人々も入手可能であり、このような国家間のコミュニティは、互惠関係と尊敬によってお互いを支え合っています。

---

### 6. ガボンでは伝統医学が法的に保護・推進されている

- " ガボン、アフリカ、そして世界は、伝統的な薬と近代的な薬の両方の価値を学び、それぞれの長所を生かしながら、ヘルスケアに革命を起こしました。医療システムは、伝統医療と現代医療を統合するために変化し、適応しています。
- "イボガに対する国際的な関心は、ガボン政府がブウィティの伝統的な施術者を積極的に承認することに一役買っている。このように、ブウィティの伝統は保護すべき文化遺産として認識され、ブウィティの実践者はイボガの持続可能性に関する取り組みや実践の規制について相談を受けている。

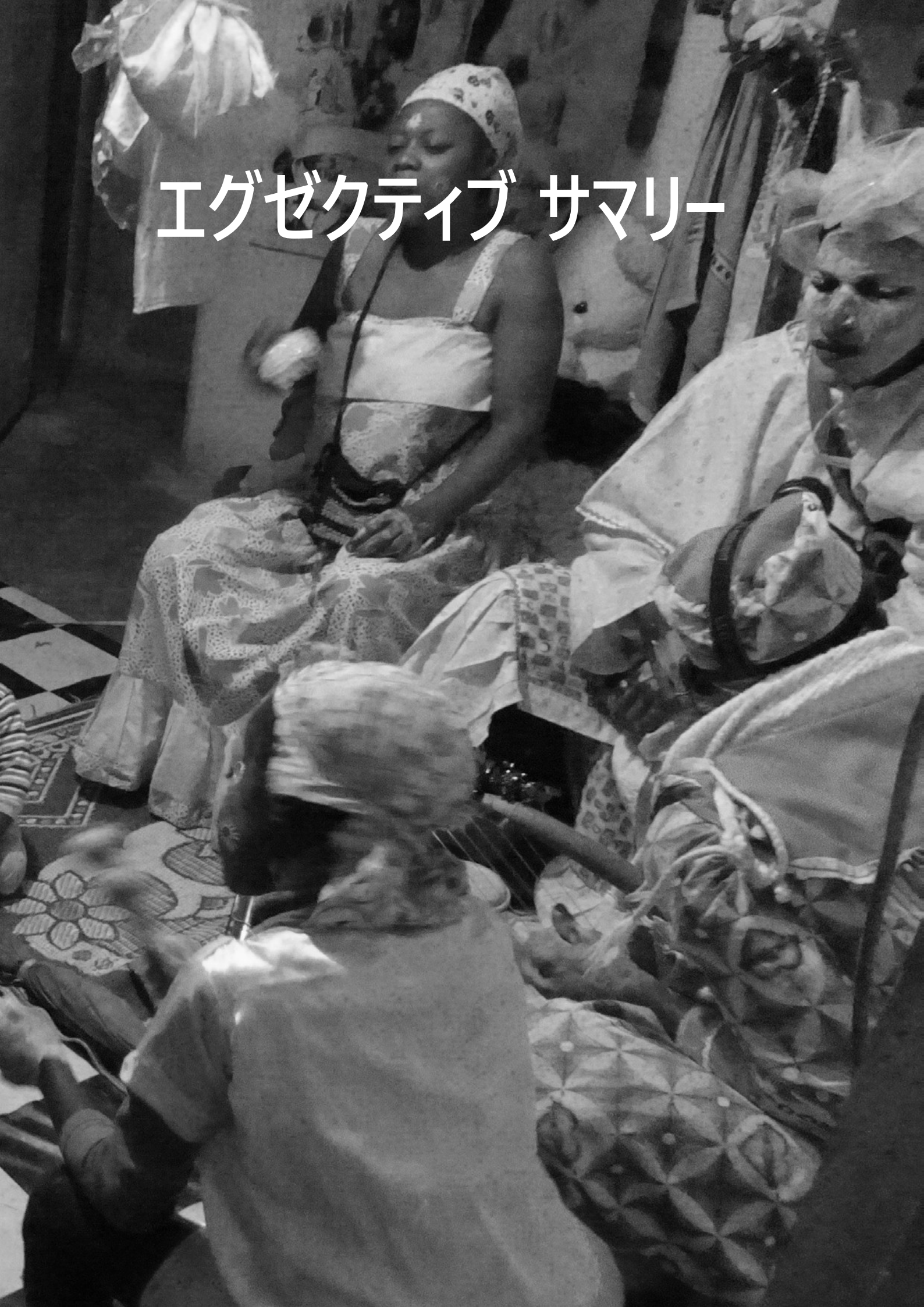
"ブウィティ族のニマとンガは、他の伝統医療従事者とともに、政府による公式な承認と認定を受けています。

---

## 7. ガボンの科学が盛ん

- "ガボンには、イボガをはじめとする薬用植物の世界的な研究を行うために必要なインフラ、規制、資源が整っています。
- " 国際社会はガボンの研究開発センターへの技術移転を支援し、国際チームとガボンのチームによる様々な研究プロジェクトが進行中です。国際的な資源がガボンに流入し、イボガ栽培や他の薬用植物の研究が行われ、ガボンの農業の多様性や森林再生戦略に関するエビデンスの構築に貢献しています。
- " 生み出された科学的知識は、主流・非主流の出版物や、ガボンの人々を知識交換に参加させる国際的な科学プラットフォームを通じて、世界に動員・共有されています。

# エグゼクティブ サマリー



## エグゼクティブサマリー

イボガは、コンゴ盆地で太古の昔から使用されてきました。私たちがインタビューし、文献に記載されているガボンでの起源説によると、イボガは中央アフリカに数万年前から住んでいるピグミー族によって最初に使用されたと言われていました。イボガは彼らの精神修養に組み込まれ、その後、過去数世紀にわたって北からこの地域に移住してきたバントゥー族と共有されるようになったのです。

## ガボンのイボガ

イボガは中央アフリカのいくつかの場所で生育していますが、最も強く根付いているのはガボンで、儀式や儀礼に使用されていますし、赤道ギニアやカメルーン南部のファング族の間でもその使用は広がっています。ガボンでは、イボガはブウィティという先祖代々の精神的な伝統行事を通して霊界と結びついており、約 50 の民族のコミュニティで今日まで実践されていることを抜きにしては理解できない。イボガは *ゴア・サクレ*とも呼ばれ、伝統的な通過儀礼や伝統的な治療プロセスで役割を果たす神聖な薬である。

スピリチュアルと伝統的なセラピストの利用は、アフリカ全土と同様に、ガボンでも一般的で人気のあるヒーリング方法です。ソガンガ（スピリチュアル・プラクティショナー）は、人生のあらゆる場面で人を助けることができます。実際、ガボンでは、近代的な西洋医学と伝統的な医学が組み合わされていることが多い。ガボンでは、現代西洋医学と伝統医学が組み合わせられることが多く、前者が主に肉体を扱うのに対し、後者は精神的な問題に特化しており、イボガやブウィティはその重要な要素となっています。

イボガは、人間と霊界をつなぐ、自分自身の魂を持った人と定義されることが多い。イボガは直接的に癒すのではなく、むしろ癒しをサポートするものです。ブウィティの実践者によると、西洋諸国でよく知られるようになった依存症に関するイボガの治療効果は、この植物が精神を浄化して癒すからだという。イボガは、意識の外側にあるものも含めて、過去の経験を建設的に検証するための扉を開くことによって、その効果を発揮します。イボガは、人々を自分自身と結びつけ、依存症などの精神に関連する病態を不活性化することができるのです。

ブウィティの実践者は、イボガで誰かが死ぬことはあり得ないと強く信じています。私たちがインタビューした人たちによると、もし誰かがイボガを摂取して死亡した場合、その死亡はすでに存在した他の病気の原因によるものである可能性があるとのこと。死因として考えられるのは、3つある。まず、以前からあった深刻な健康状態が原因で死亡する可能性があることが指摘されました。次に、西洋ではあまり理解されていないスピリチュアルな次元に関連するものが死の原因である可能性がある。最後に、イボガと間違われたセリ科の植物の摂取による死亡（ただし、検死で確認されたのは1例のみ）。

## ブウィティとイボガのグローバル化

ブウィティは外国人の間で人気と尊敬を集め、さらには信仰を集めているが、ガボンの大多数のキリスト教徒、特に福音主義教会では、これらの習慣はまだ十分に尊重されていない。イボガはブウィティの延長として、深い尊敬から完全な軽蔑まで、賞賛から恐怖まで、両極端な方法で評価されている。ブウィティの実践者は、しばしば隣人から拒絶され、敬虔なキリスト教徒からは恐怖心を抱かれることさえある。そのため、歴史的にこれらの神聖な習慣は秘密にされ、白人外国人は、彼らがこの知識を利用して自己の利益を得ることを恐れて、疑惑の目で見られたが、今では、この植物と習慣を高く評価する外国人によってもたらされた正当性と名誉に対してよりオープンになってきている。ブウィティの実践者たちは、現在

このような国際的な関心の高まりは、彼らの伝統が母国で直面している攻撃や汚名に直面したとき、新たな、そして思いがけない味方の源となるものと考えられる可能性があります。

西洋で見られるような臨床的、治療的なイボガの使用に関して、ブウイティのコミュニティでは一般的に受け入れられています。なぜなら、イボガは全人類を救うためにこの世に生まれた万能薬と考えられているからです。なぜなら、イボガは全人類を救うためにこの世に誕生した普遍的な薬と考えられているからです。しかし、植物の守護者たちは、スピリチュアルなツールとして使用する場合は、ブウイティに入門することが推奨されると主張し、植物とその精神をすべての人が尊重するよう要請しています。イボガを扱うことを学びたい人は、バンドジ（入門者）、ソガンガ（精神修行者）、カンボ（寺院の守護者）、ニマ（マスター入門者）と、長い学びの道を歩む必要があるそうです。これらのプロセスは重要であり、注意深く従わなければ、悪い結果を招くことになります。したがって、私たちが話を聞いたブウイティの施術者たちは、国際的な臨床応用に反対するわけではありませんが、この訓練と精神的なプロセスや植物への配慮の重要性に言及しています。治療の商業化に伴い、天然資源としてのイボガが搾取され、ガボンの人々との互恵関係やコンゴ盆地の森林に対する敬意が欠如していることは、対処すべき懸念事項である。

## 生物文化的持続可能性

イボガの生物文化的な持続可能性は、大きな関心事です。タバナンテ・イボガは、コンゴ盆地の森林で伝統的に自由に豊富に生育してきたため、コミュニティが栽培を必要とすることはなかった。農村部のコミュニティはイボガへのアクセスについてあまり心配していないようですが、希少性が増すことへの懸念は、リーブルヴィルや河口の都市部においてより大きくなっています。これらの地域では、イボガはまだ入手可能ですが、需要の高まりにより、質、量、価格ともに影響を受けています。野生のイボガの再生能力と都市部での入手可能性に影響を与えている主な要因は、国際市場で販売するための大規模な違法伐採、警察によるドメスティックな出荷の押収、伐採産業による土地の囲い込みです。自然保護連合の「絶滅危惧種レッドリスト」では、タバナンテ・イボガは絶滅危惧種ではないものの、要注意植物に指定されています。2019年2月、ガボン政府は、植物の持続可能性に懸念があるとして、すべての輸出を停止した。

一部の地域で発生している不足状況は、イボガ栽培の必要性が高まるという前代未聞の事態を招いている。ガボンでは歴史的にイボガを栽培する必要はなかったが、多くの村がその知識を持ち、小規模な栽培を行うことが可能である。ブウイティのコミュニティでは、イボガの繁殖方法として、a)野生繁殖、b)既存の植物の根を使った繁殖、c)クローン、d)種子の4つがあることが知識保有者によって共有されています。収穫時には、高さに関係なく5年以上、10年以上が望ましいとされている。引き抜くときは根の一部を残すと便利で、個体ごとの再生を確実にするため、必ず数本の挿し木を植え替える。

## イボガの栽培

イボガ根皮とイボガインの両方の需要は、今後数年間で飛躍的に増加することが予想されます。また、イボガインの生産が、イボガを主原料とするアルカロイドから離れる可能性も高い（そして望ましい）。この分野では、*Voacanga africana*のような現在高価な他のアルカロイド源を最適化する方法、あるいは合成アルカロイドを開発する方法を模索している様々なアクターが存在します。一方、国際市場に出回るイボガとイボガインのほとんどは、ガボンの森林で収穫された植物から得られたもので、その起源を追跡することはできない。の需要に応えるため

ガボンの森に自生するこの植物を収穫するために、地元住民に金銭を提供する密売人のネットワークが、この地域、特にカメルーンに確立されています。収穫者は、挿し木をすることなく木を根こそぎ倒してしまうため、自然の再生が妨げられてしまう。そして、根皮は国際的な転売業者に売られ、非常に大きな利益を得ています。

現在、ガボンでは、トレーサビリティのあるイボガを栽培している農園は数件しかありません。本稿執筆時点では、名古屋議定書に記載されたトレーサビリティと地域社会との互惠関係の要件を満たす合法的なプランテーションを、政府が認定するプロセスを開始したところであった。私たちはフィールドワークで、将来のモデル開発のためのパイロットプロジェクトとして、コミュニティ・プランテーションとプライベート・プランテーションという2種類のプランテーションを確認しました。私たちが訪問したコミュニティ・プランテーションでは、約4,300本のトレーサブルな植物があり、フェアトレードとして国際的に販売することを中長期的に計画しています。地域の女性、男性、少女、少年の全員が積極的に自治会に参加しており、自治会の財政管理がオープンで透明であることに大きな誇りをもっています。イボガを輸出することで、コミュニティの持続的な発展に投資するための資金を調達し、同時にブウィティ族のコミュニティがイボガにアクセスできるようにするという、ささやかなプランテーションなのです。

2つ目の農園は、国内のみならず世界最大の民間イボガ農園で、栽培面積は6ヘクタール、栽培本数は2万本を超え、まもなく倍増する予定です。この農園では、完全なトレーサビリティを持つ植物が栽培されており、国際的な技術移転により、ガボン国内でイボガインの抽出から商業化までの一連の流れを開発し、単なる原料生産にとどまらない取り組みが期待されています。また、イボガを繁殖させる方法についても研究が進められており、限られた知識しかないイボガの繁殖方法を改善することが期待されています。

最後に、イボガとその由来するアルカロイドの栽培、生産、再生に関するあらゆる側面について、さらなる研究が必要であることが強く指摘されている。ガボンの研究・科学は、アフリカの他の地域と同様に、もちろん現代の理論家や技術者の領域と考えられていますが、同時に先祖伝来の知識と密接に関連しています。ガボンの科学者たちによれば、科学と医学の革新は、伝統的な認識論的、方法論的モデルを現代科学の実践に取り入れる必要があるという。現代の生物医学モデルが、理解とは生理的・化学的メカニズムに関する知識を生み出すことであるという前提に立っているのに対し、伝統的モデルは、物質世界において植物が生み出す効果は、精神の介入に基づくものであると認識しています。この2つの知識体系は、イボガ研究、ゴア・サクレ、そして身体と精神を癒す役割の理解にとって、補完的で適切なものと理解されています。



# メソドロジ



## メソドロジー (METHODOLOGY)

### 目的

- " アフリカの視点や声が、イボガやイボガインのグローバル化に影響を与える強力な機会を作り、視点を橋渡しし、地元のアフリカの関係者と世界のイボガ/イネの「コミュニティ」の間の文化間のつながりを強化する。

### 具体的な目標

- " ガボンと中央アフリカの多様なアクターを巻き込んで、イボガに関するさまざまな視点を捉え、重要なステークホルダーが彼らの伝統と現在の現実に応じて適切と考える問題を新たに理解する。
- " イボガの持続可能性に関する重要な問題：生態学的および文化的な持続可能性、イボガに対する国際的な需要の高まりがアフリカのコミュニティや生態系に与える現在および潜在的な影響、進歩的な持続可能性活動や政策の特定について、見通しを得る。
- " アフリカと世界のイボガとイボガインコミュニティの多様なアクターの間で、連帯と信頼、そして感謝と寛容の文化を構築する。

### 定性的アプローチ

質的方法論は、多くの次元で、人間の行動は数字に還元できないことを立証しています。この前提のもと、人は自分や他者の行動に対して抱く意見や評価を分析し、解釈することが優先される。このように、質的手法は人間の行動の重要性を強調し、意味の伝達手段としての言語や行動、社会現象にアプローチする基本的な戦略としての解釈や理解を特に重要視しています。

### テクニック編

#### 文献・資料調査

ブウィティの精神性、イボガの実践、政策と分析、持続可能性、トレンド、その他の関連トピックに関する出版物およびグレー文献のレビューを行いました。

#### 徹底的な半構造化インタビュー

主要なステークホルダーを対象に、56件の詳細な半構造化インタビューを実施しました。このインタビューでは、あらかじめ設定されたテーマや問題点を探りながら、インタビュー対象者自身が自分の言葉で、自分の視点から取り入れたいと思うような事柄も含めて、テーマを広げていきました。

#### エスノグラフィック・インタビュー

エスノグラフィック・インタビューとは、特定の文化的背景の中で行われる、予定調和ではない、構造化されていない会話で、意味のある相互作用が起こりうるものです。

#### 参加者観察

神聖な植物を使った実践を通して、地域コミュニティが世界との精神的な関係をどのように描いているかを完全に把握することや、グローバル化に伴う機会や課題に対する彼らの見解を理解しようとすることは、本質的に困難です。地域の文化的環境の中で、空間と実践を共有することができた。



# 一般的な所見



## ファインディング

### 引用コード

以下の文章は、56 人の質的インタビューから得られたものであり、そのうち 19 人については直接引用している。本文中では、これらの引用に以下のコードを付している（本文中に登場する順に表示）。

E1: Akouma Nlo (Delphine) [A2E Association, Ebyeng]

E2: Nguema Aristide [BOTF Gabon Executive Manager]

E3: シモン＝ピエール・オボノ [ニマ、ラ・ハーブ]

E4 : N.デボラ（ママンD）【ニマ・モウンバヤノ】の場合

E5 : Hugues Obiang Poitevin（タタヨ） [Nima Ebando]（ニマ・エバンド

E6 : Ngamboya Mba（Ma Céline） [A2E 協会、Ebyeng]

E7 : Stephanie Mousounda（Maman Djedje） [Nima]（ニ

マ

E8 : ディアヌ・ディテングー [エバン

ドール] E9 : ママンカディ [ニマ・ミトン

ネ]

E10 : Daniel Laoundé Gensdedieux（Rekako） [ニマ、コミ]。

E11 : Hubert Bled Elie Nloh（パパ・エリー） [A2E 協会会長、Ebyeng] E12 :

Yann Guignon [BOTF 共同ディレクター]。

E13 : バヨイ・デボラ【ニマ、コミ

E14 : マガモウ・ヴィンセント【ニマ・イシカ】さん

E15 : クリストフ・マセラン（Nganga Mbeng

N'tam) E16 : リュック・マトット（Conservation Justice

Director）。

E17: Emmanuel Bayani Ngoyi [名古屋議定書会議環境事務局長] E18: Hervé Omva [IDRC

アフリカコーディネーター] E18: Hervé Omva [IDRC アフリカコーディネーター] E18: Hervé Omva

[IDRC アフリカコーディネーター

E19 : Professeur Henri-Paul Bourobou Bourobou [元 IPHAMETRA 社ディレクター]。

# Gabon フアクト

## 基本データ

- " 総面積：267,000km<sup>2</sup>（米国テキサス州と同程度の大きさ）。
- " 気候は赤道直下の気候で、熱帯雨林が広がっている。
- " 森林のカバー。国土面積の 89.3%<sup>1</sup>
- " 森林の損失ガボンの森林損失は年間 0.12%、平均劣化率は 0.09%と比較的低下水準である。森林減少の主な原因は、道路沿いに設けられた小規模農業と都市開発であり、一方、主な原因-。  
森林劣化の原因となるのは、産業鉱業と違法伐採である<sup>2</sup>
- " 人口：2,120,000 人（2018 年推計値）。
- " 首都。リーブルヴィル（人口約 70 万人）。
- " 公用語。フランス語は人口の 80%が話し、ガボン人の 3 分の 1 は母国語であると推定されています。
- " 少数民族：ファング（32%）、ムボングウェ（15%）、ムベデ（14%）など 50 言語。  
ブヌ（12%）など。
- " 政治体制。大統領制の共和制。
- " 経済の話ガボンは中所得国の上位に位置し、2020 年の GDP は 130 億ドルに達する予定です。  
一人当たりの所得は、サブサハラアフリカの多くの国の 4 倍です。アフリカ第 5 位の産油国であり、過去 10 年間、石油、マンガン、木材の生産に牽引され、力強い経済成長を遂げてきた。  
輸出額の約 8 割を石油が占めている。



## 略歴

- "先祖代々のピグミー族。ピグミーは、現在のガボンで最初に知られた住民です。彼らは狩猟採集民で、少なくとも7,000年前、もしかしたらもっと前に定住していたかもしれません。
- " **バンツ族の拡大**。その後、紀元前1,000年から2,000年頃にかけてバンツ族の入植が相次ぎました。ピグミー族とは異なり、バントゥ族は伝統的に半遊牧民であり、畜産業を営んでいる。その後、ピグミー族、バントゥ族、そして今日ガボン人の大部分を占めるバントゥ族が次々と移住してきた。
- " **ヨーロッパの到着**ガボンを最初に訪れたヨーロッパ人は、1472年に到着したポルトガルの商人で、ポルトガル語のガバン（コモ川河口の形に似た袖とフードのあるコート）でこの国を呼びました。海岸は奴隷貿易の中心地となった。16世紀にはオランダ、イギリス、フランスの貿易商がやってきました。
- " **イボガが初めて文献に記載される**。1819年、イギリスの旅行家で作家のエドワード・ボウディッチは、ガボンで消費される「好物だが暴力的な薬」として「エロガ」に言及している。彼は当初、粉末の状態で見たのだから、炭化したキノコだと考えていたようだ<sup>3</sup>。
- " **フランスの植民地**。フランスは、1838年から1841年にかけてガボン沿岸の首長と結んだ条約により、19世紀半ばから徐々にガボンを占領していった。1886年、ガボンはフランスの植民地となり、1888年にはコンゴと合併してガボン・コンゴと呼ばれ、さらに1898年にはフランス領コンゴとなった。1904年、ガボンは再び独立した植民地となった。



ガボン南部、ヌグニエ県マンジの風景。ジャングルは文字通り村の門を叩く。©Ricard Faura

- " **ファンク族の到来** 19世紀、フランスの軍事的・行政的征服と並行して、北東部からファンク族が移住し、現在のガボン領土の重要な部分を植民地化しました。現在、彼らは人口の約30%を占めている。
- " **イボガが北上する**。タベルナンテ・イボガ（以下、イボガ）の最古の記録は、グリフォン・デュ・バレイがフランスに標本を持ち込んだ1864年のものである。<sup>4</sup>
- " **イボガインの抽出** 1901年、DybowskyとLandrinによって *Tabernanthe iboga* からイボガイン（イボガに含まれる主要アルカロイドの一つ）が初めて分離された。1939年、*Tabernanthe manii* から抽出され、フランスで Lambarène（ガボンの都市名）の名で、疲労やうつ病の治療薬として錠剤として販売されました。  
1錠あたり0.2gのエキスを含み、約8mgのイボガインが含まれています。<sup>5</sup>
- " **スピリチュアル・ハラスメント** 1940年代、フランス人はブウィティ修行者への嫌がらせを始め、ガボンの伝統的な精神性に汚名を着せました。
- " **精神的な植民地化**。19世紀にはフランスがカトリックを導入した。しかし、20世紀後半になると、アメリカ式のものが広く普及した。

保守的な福音派教会。現在、人口の88%がキリスト教を信仰している。福音派教会に所属する多くのガボン人は、ブウイティを「極悪非道なカルト」と位置づけ、ガボンにおけるブウイティの伝統の正常化に対する最も厳しい反対勢力となり得る。

"**独立** 1960年8月17日、サブサハラアフリカの大半のフランス植民地と同様、ガボンも独立を果たした。初代首相にはレオン・ムバが就任し、その後大統領に就任した。ムバは若い頃からファン・ブウイティを実践していたが、大統領在任中、カトリックの教えがガボン全土に心地よく広がっていった。

" **オマール・ボンゴ** 1967年、ムバが死去し、後任として元参謀のオマール・ボンゴが就任した。ボンゴは単一政党制であるガボン民主党（PDG）を設立し、2009年6月8日に死去するまで国家元首であった。1990年代に入り、複数政党制が導入され、新しい憲法が書かれ、より不透明でない選挙プロセスが可能になりました。この時期、ボンゴはブウイティに対してかなり寛容なアプローチを確立したが、たとえそれが持続するスティグマティズムの対象であったとしても、である。

"**アトメ・リベンガ氏**。ガボンで最も尊敬される精神的な父の一人として、アトメ・リベンガ師は1996年に歴史的なテレビ番組で、ブウイティに関する大胆な新しい姿勢を示し、一般のキリスト教徒であるガボン人の目にこの伝統を尊厳するものとして映りました。

"**アリ・ボンゴ（Ali Bongo）**2009年、オマール・ボンゴの息子アリ・ボンゴがガボンの第3代大統領に就任（本稿執筆時点でも就任している）。2011年、彼は名古屋議定書に署名した。2019年、政府が名古屋議定書に沿った輸出方法を定義するまで、イボガの合法的な輸出は停止された。

## 自然の中の共同体楽園の喪失

ガボンは、ガボン・コンゴ地域の「過疎地帯」に属し、人口密度が非常に低く（5.7人/平方km □アフリカ大陸全体では37人/平方km）、出生率が平均より著しく低い。2010年の合計特殊出生率は4.<sup>66</sup>、年間成長率は2%で、サブサハラ・アフリカの5.8 □2.8%と比べても、その低さは明らかだ<sup>7</sup>。

人口の少ないこの国の逆説は、人口の半分が2つの主要都市（リーブルヴィルとポルト・ジェンティル）に住んでいることで、ガボンはアフリカで最も高い都市化率の1つになっています。これに対し、国内では、都市部以外の密度はサハラ砂漠の国々と同様で、2人/km<sup>2</sup>以下である。<sup>8</sup>ガボンは、生物多様性が非常に豊かで、人口が少ない。そのため、象牙、センザンコウ、ヒョウの皮、いくつかの保護動物 □イボガなどの生物文化資源の違法伐採や密輸が広く行われやすくなっています。ガボンの農村文化は、狩猟採集文化から農耕文化への決定的な飛躍はないように思われる。森との共生があまりに深いため、ガボン人の多くは、森とその資源がいつか枯渇することを受け入れることができないのだという。



## スピリット

### スピリチュアリティとブウィティ

**BWITI** です。ガボンを訪れ、人々の生活とイボガの関連性について尋ねたとき、この質問はしばしば驚きをもって受け止められたことは重要なことです。なぜ、イボガを中心に据えるのか？ガボンでは、イボガは精神的な問題や通過儀礼、特にガボンの人々の祖先の精神的伝統であるブウィティ以外では、必ずしも議論されることはない。イボガは、それ自体はとても重要ですが、信仰や慣習の中心ではなく、むしろ全体の一部であるようです。

イボガは、それ自体が最も重要なものではなく、それ自体よりも大きな何かの一部なのです。[E2-N. アリステイド\_01:24]。

植物やそのアルカロイドだけでは、霊界へのイニシエーションはできません。実際、イニシエーションには霊的な母または父（ニマ）と、神聖な植物にとどまらない一連の技術や手順、例えば神聖な楽器（モモンゴ、ハーブ、ドラム、合唱団）やその他の儀式要素が必要です。イボガはブウィティの一部であり、それは精神世界の表現であり、これらすべての要素を組み合わせ、2つの世界の間の伝達と接続のチャンネルとして提示します。

ピグミー族と接触し、イボガを儀式に取り入れる以前から、バンツ族の間でブウィティは様々な形で存在していたという説もあります。実際、バンツ族とピグミー族は、意識状態を変化させるために、ダンス、音、香水、入浴、光、色などの要素を取り入れた異なる方法をとっています。これらの要素は、エネルギーと意図を込めた儀式の中で組み合わせられる。ムンバヤノのようなブウィティのイニシエーション儀式では、イボガを象徴的にのみ使用します（頭には装着しますが、食べません）。イボガはバンドジ（入門者）に贈られるが、最初は飲ませるのではなく、他の方法で深いトランス状態にさせるのである。

ピグミー族は、イボガの霊的知識の伝達者として認識されているが、霊的イニシエーションにイボガを使用するとは限らない（これは特に北部のパカピグミー族に顕著）。しかし、ピグミーがバンツ族の儀式にイボガを導入したとき、この植物は現代のブウィティに表現される複雑な生物文化システムの中で非常に重要な要素（必ずしも最も中心的なものではない）となったと考えられる。

**精神（S）**。ブウィティ族に話を聞くと、イボガを摂取する儀式で起こることを説明する場合、霊的な世界と関係があることがわかります。また、ブウィティ族の伝統によって、すべてを貫く神聖な力としての「霊」を強調する場合もあれば、一般的な「霊」、「霊界」、あるいは「精霊」を強調する場合もあるようです。例えば、キリスト教と習合したブウィティ・ファンのような特殊なケースでは、キリスト教の神の姿をブウィティの精霊の姿に近づけることになる。しかし、ブウィティ・ファンのスピリットは、超越的なキリスト教の神と比較すると、イマノセントな存在である。それ以上に、霊的な存在に満ちた霊界という基本的な概念は、ガボンの他のさまざまなブウィティ族の儀式と基本的に共通するものであろう。いずれにせよ、この問題を理解するには、この文章では説明しきれない深い議論が必要である。したがって、以下では、「霊」と「霊界」という用語を一般的かつ複合的な形で提示し、それぞれの用語の深い意味と、それらが含む世界観について、それ以上の区別をすることはしない。

このような宇宙観の中で、イボガは、イニシエーターであるバンドジと霊界を結ぶ扉としての役割を担っている。そして、ブウィティ族の間では、イボガを使うことで霊界とつながることができるのです。

霊の世界の立ち位置は、イボガに依存しません。イボガを摂取するずっと前に、霊と霊界がバンドジに明らかにされることが非常に多い。すべてを仕切っているのは霊界であって、イボガではない。実際、ある人によれば、この神聖な植物が人々にスピリットを明らかにできるように、イボガの存在を人々に知らせたのは、スピリットそのものであったという。



オゴウエ・イビンド県アドウエのファン・ブウィティ開始の様子。©Ricard Faura

ガボンの人々、特にイボガを摂取するブウィティの修行者たちの霊的知性は非常に深いものがあります。自然界にはすべて霊が宿っている。自然はすべてスピリットである。木や川、巣など、自然から何かを得るには、その精霊の許可を得て、自分の意思を表明しなければなりません。そして、もし私たちが自分の精神的な利益のために何かを取るのであれば、その代償を払わなければなりません。木は人間と同じように魂を持った生き物なのです。植物もまた、癒しを必要としているのです。霊的なつながりを信じることで、コミュニティは自然の霊的な言葉を理解することができるのです。

人間を救うためには、スピリットへの信仰が必要だからです。そして、この信仰があるからこそ、植物と話し、木と話し、薬と話し...そして、彼らがどのように自分に語りかけてくるかを聞くことができるのです。[E6-N.Mba\_36:23]。]

**ONENESS（一体性）**。健康と病気は、常にコミュニティの精神世界と外部の霊に支配されています。ブウィティは病人に癒しをもたらす。この意味で、ブウィティは伝統医学の知識体系として理解され、その中で植物薬は精神性に関連しています。イボガは、このシステムの中で、人々が精神的なレベルで健康に取り組むことを可能にする神聖な薬として機能し、それが有効であるとすれば、それは単に物質的なレベルではなく、このレベルで作用するからにほかならない。

ブウィティの本当に良いところは愛です。愛を広める方法ですから...みんなと一体であると感じることができる、それはとても素晴らしいことです。[E5-Tatayo\_56:25]。]

情報提供者によると、ブウィティの癒しは、精霊の働き、保護と精神的な高揚感、そして究極的には宇宙との交感であるという。精霊は、人の要求を明確にするために呼び出され、その要求を達成するのを助けることさえある。ブウィティは浄化すると同時に、ポジティブなビジョンをもたらし、儀式が行われた後は、イニシエーションを受けた人、バンドジの生活の中で効果的に実現されることになるのです。

**起源は？** 世界中の神聖な植物を消費する文化圏では、動物や植物がどのようにして人類にそれを伝えたかを説明する神話や物語を見つけるのが一般的です。<sup>9</sup> ガボンを訪問した際、私たちはピグミー族がイボガを発見したとするいくつかの物語を聞かされました。ピグミーがイボガを発見したとする話をいくつか聞いた。

ヒヒ、ゴリラ、オウム、ヤマアラシ、ゾウなど、様々な動物がイボガを利用していました。実際、動物（特に象）がイボガの実を食べ、その糞から新しい植物が蒔かれることをブウィティの修行者は知っています。

イボガの歴史は、文献や考古学的な証拠がないため、いくつかの説がある。ガボンのコミュニティでは、ピグミー族が最初にイボガを使用し、その知識を後にガボンに到着したバントゥー族に伝えたという見解で一致しているようです。ピグミーからイボガの知識を最初に受け取ったとするバントゥー系民族は、ミツゴ、マサンゴ、アピンジ、ブヌの少なくとも4民族であるという。ファング族は最後にイボガを取り入れた民族であり、ヨーロッパの宣教師によってもたらされたキリスト教信仰と融合した新しいブウィティの形を作り上げた。

**儀式。**ガボンのバントゥー・コミュニティは、ブウィティの伝統を自分たちの習慣や過去の伝統に従ってアレンジし、多様な儀式を生み出した（Ngondet□Miobé□Missoko□Mabandzi□Maboundi□Moumbayano□Dissoumba□Mbiri-Zilianなど）。これらの儀式の奥深い特殊性は、イニシエイトにのみ明らかにされ、一般人はその知識を知らないままである。

**CEREMONIES（セレモニー）。**セレモニーでは、コミュニティのメンバー全員が、儀式やイボガを通して霊界とつながる役割を担っています。ブウィティでは、神殿、衣服、ボディペインティング（ペンバ）、身振り、歌など、すべてが象徴に満ちている。ブウィティの信仰体系では、その秘密が未経験者に知られないようにする必要があるので、象徴的な事柄やイニシエーションの順序については、ここではこれ以上明かすことができない。

*すべてが理にかなっている、すべて、細部に至るまで。しかし、また、その詳細は内部の人間にしか説明されない。  
[E3-SP.Ovono: 01:35:06] です。*

**バンドジ、ンガンガ、ニマ。**バンドジとは、ブウィティに入門する人、あるいはすでに入門しているが日常生活ではあまりその伝統に従っていない人に与えられる名前である。イニシエーションでは、バンドジはコンボと呼ばれる、バンドジに付随する霊的存在と出会います。バンドジがコンボを日常生活に取り入れたとき、彼らはンガン（Ngan-gas）となる。ガボンでは、ンガンガとは、ブウィティのイニシエーションを受けただけでなく、日々実践している人のことを指します。ンガンガとは、ブウィティの知識を生活、仕事、音楽、教養に応用する人です。彼らは予言者であり、治療者です。しかし、ンガンガを訓練し、油を注ぐ知識と権限を持つのはニマであり、イニシエーションの才能と癒しの知識はニマにあるのです。ニマは村の精神的リーダーなのです。ニマ、あるいはンガンガになるには、数年間の学習と実践を要する長いプロセスが必要です。その過程では、伝統科学のいくつかの分野、例えば、イン・イチオネーション、ヒーリング、自然薬理学、人類への精神的な支援などを体系的に学びます。ニマの役割には大きな責任が伴います。イボガの肉体的、精神的な側面を知るだけでなく、ヒーリング植物の知識と実践、そして伝統的なセラピストになるためのプロセスも含まれるのです。

*その要素を知らずに、他人を指導することはできません。コンサルテーションをするとき、目の前にいるのは深刻な問題を抱えた人なので...ハーブや手順を知らなければ、良いデトックス治療を行うことはできません。必要な跳躍ができない。黒蛇を狩ることもできない。このような問題を抱えた人が来たら、それを解決する方法を学んでおく必要があるのです。[E4-Maman D\_34:08]。]*

ニマスによると、この知識を得ることは外国人にも可能だが、そのためには他の科学的訓練と同じように、必要な時間を費やして勉強する必要があるという。

## ブウィティのガボンでの現在の状況



マバンドジの儀式を指導するングエ県ミクティ村のニマ、Nkogué Madeleine（マドレーヌ）。©Uwe Maas

**ブウィティは宗教なのか？** ある情報提供者によると、ブウィティの伝統は、いわゆる「書物の宗教」（主にユダヤ教、キリスト教、イスラム教）とは異なり口言仰や教義に基づくものではなく、むしろ経験に基づくものであるとのこと。また、教祖を持たず、多くの教義を持つ。宗教というより精神的な道であるという人もいるが、他の宗教の美德や欠点が多く含まれているという反対意見もある。例えば、ブウィティのイニシエーションは、もし破れば神秘的な力によって厳しく罰せられるというルールにも従っている。

*私にとって、ブウィティは宗教ではありません。自分を見つける方法であり、人生を理解する方法であり、日常生活で起こることを理解する方法なのです。目に見えない世界と少しつながることができる方法なのです。[E8-D.Ditengou\_15:39]*

世界の主要な宗教もブウィティも、幸福、健康、喜び、愛、平和という同じものを心の底から求めているのだから、違いがないという人もいます。キリスト教とブウィティスト、ユダヤ教とブウィティスト、イスラム教とブウィティストとを感じる人さえいる。教会やシナゴーク、モスクでは、それぞれの聖典を通して神の言葉が伝えられるが、ブウィティでは聖典を介さずに、一人ひとりが神や霊界と直接対話する。

さらに、イボガの使用は、この一般的に見えない世界への体験的な扉を直接開くものである。インタビューによると、これらの要素がブウィティを深い精神的進化の修行とし、したがってブウィティは精神的なレベルにおいてより高いものになるという。このアプローチは、神聖なものをすべての生き物の中に、そして存在の全体性の中に置くという、ブウィティの精神性に与えられた内在的な性格を際立たせています。また、キリスト教の教義や、近年北欧から伝わった他のアブラハム宗教の神である、信者の「上に立つ」外的・超越的な神への信仰とは対照的な概念である。この点で、当初キリスト教徒であり、後にブウィティの入信者となった人々の中には、後者の方が神をよりよく知ることができ、したがって自分たちの宗教をより深く理解することができるという人もいます。そのため、ブウィティと經典に基づく宗教は補完関係にあると考える人もいますが、ガボンでは実際には全く逆の考えを持つ人も多く、例えばキリスト教の信仰を持つ人がブウィティに入信すると、その宗教団体から追放されることもあるのが現実のようである。

**BWITI の現状。**ブウィティは外国人の間で人気や尊敬、さらには信奉を集めていますが、ガボンのキリスト教徒の大部分にはまだあまり評価されていません。

イボガはブウイティの延長線上にあり、尊敬と軽蔑の連続体である。特に都市部では、敬虔なキリスト教徒の間で、ブウイティ修行者はしばしば拒絶に直面し、恐怖心さえ抱かれることがあるようです。しかし、ガボンにおけるスピリチュアリティは依然として強く、ガボンの都市部に住む人々の一部にはスピリチュアリティに対する大きな関心がある。そのため、ガボンではブウイティが衰退する恐れはないのです。

*私たち、正確にはガボン人のイボガ施術者は、ガボンでは異星人、魔術師、ヴァンパイア、何もわかっていない人、輸入宗教、書物の宗教を否定し、伝統に根ざした人たちだと思われているからです。しかし、彼らはそのような方法で古代の図書館を丸ごと焼き払うことはできないだろう。[E7-S.ムーサンダ\_14:28]。*

そのため、多くのブウイティ族は、西洋のイボガに対する関心に長い間不信感を抱いてきました。しかし、イボガに対する国際的な関心の高まりは、現在、私たちが訪れたブウイティ族のコミュニティでは歓迎されています。彼らは、外国人の中に、ガボン人の間でこの伝統にまつわる深いスティグマを補う、格調高い味方の到来を感じています。特に農村部では、外国人の関心が、地元の人々の間でブウイティの精神的指導者や共同体の威信を高めている。さらに、外国人はブウイティのイニシエーションが行われるコミュニティに資金と資源をもたらし、伝統に敬意を示すため、一般的にこれらのコミュニティでは非常に歓迎されています。何人かのインタビューによると、イボガに対する国際的な関心が高まることで、ガボン政府が実践者の長年の望みであった地位を与えることが期待されているという。

**キリスト教の教会との対立**ブウイティは長い間、攻撃を受けてきました。フランスの植民地政権は、アフリカの領土のすべての精神的伝統を異質なものと、さらには敵意を持って扱いました。ガボンでも、ブウイティは同じような敵対的な扱いを受けた。その後、レオン・ムバとオマール・ボンゴが大統領に就任すると、ブウイティは嫌がらせを受けなくなったが、両大統領が若い頃にこの伝統に入門していたにもかかわらず、汚名を着せられるようになった。ガボンの人々をキリスト教化しようとする努力は、何十年も前から行われてきた。カトリックは伝統的にブウイティ族にある程度の寛容さとシンクレティズムさえ認めてきた。しかし、ガボンにおける福音主義教会の登場と急速な広がり、ブウイティにとって最大の脅威となった。昔も今も、これらの教会のメンバーはブウイティ族を "魔術" で非難している。

*"イボガは悪魔である" という異なるポピュラーなバージョンもある。いずれにせよ、全世界がイボガを発見しており、その間、ガボンはイボガが悪魔なのか神なのか、まだ迷っています。[E5- Tatayo\_18:07]。*

魔女の告発はよくあることで、ガボンのキリスト教徒にも影響を与え、双方向で行われているようです。ブウイティの修行者の中には、ブウイティでは魔女は簡単に見分けがつくが、キリスト教会では気づかれず、羊を飼うために黒魔術を使う者が多くいると考えている。教会の中には、信者の側にいて力を蓄えるために、魔術や暗黒の霊術を行う司祭がいると主張するのです。善と悪はどこにでもあると彼らは言い、ブウイティの外見的な美的側面は、部外者にはより野蛮で不屈の精神に見えるかもしれない。また、キリスト教会は悪の中の善、善の中の悪を認めないため、それを管理できず、これらの機関の中で魔術が容易に横行すると主張している。

## 伝統医学としてのイボガ

### 現代医学と共存し、補完する。スピリチュアリティと

ガボンでは、伝統的なセラピストによるヒーリングは非常に一般的で、人気のある方法です。ソガンガは、その人の人生のどんな分野でも助けることができます。実際、ガボンでは、近代的な西洋医学と伝統的・補完的・代替的な医学（以下、伝統的・文化的・代替的医学、TCAMと呼ぶ）を組み合わせることが非常に一般的である。<sup>10</sup> インタビューによると、現代西洋医学が主に肉体と身体的な問題を扱うのに対しTCAMは同じ領域を扱うだけでなく、何よりも精神の問題に特化しており、イボガとプウィティはこのアプローチの重要な構成要素であるという。

ガボンの医療制度を内側から知るインタビューアーによると、西洋の制度の下で教育を受けてきたガボンの医療従事者の中には、伝統医療に対して愛憎の感情を抱いている人もいます。しかし、ガボンの医療従事者の中には、両者の方法、目的、ツール、人間や世界に対する視点が根本的に異なっても、補完的でもあるため、両者のアプローチは医療システムに統合されるべきだと考えていると話してくれた人もいた。このような観点から、TCAMは現代医療が制限される場合に適用されます。

プウィティのヒーリングアプローチは、森と植物の知識、そしてスピリットの介入という2つの基本的な前提に基づいています。先進的な実践者たちによれば、その方法論の質の高さと肯定的な結果は、この伝統を科学のレベルにまで高めているとのこと。ガボンでは、多くの人々が霊的な病気を治すためにTCAM（とプウィティ、つまりイボガ）に頼っています。プウィティ（とイボガの儀式的使用）は、現代医学では治せないような病気を治すことができると信じて疑いません。そのため、病院では現代医学の医師と伝統医学の医師の両方を雇うべきであると考えられており、両者は補完関係にある。

*物質に関する知識においてすでに非常に強力であるモデル（現代医学）に、精神的な次元（伝統医学）を持ち込むことには、補完性、完全性の形があります。この理想は極めて野心的な目標であり、私たちはそれを達成できると信じています。[E2-N.Aristide\_07:57]*

ケースによって、現代医学の医師が必要か、伝統的な治療が必要かを、人自身が判断することが多いのです。例えば、精神的な問題など、現代医学ではなかなか治らないような問題には、TCAMの方がずっと効果的だと思われます。このような場合、人々は日常的にTCAMによる解決策を求めるのです。なお、このモデルでは、依存症は精神の苦しみであり、したがって精神的な健康問題であると考えられています。

コミュニティワークや精神疾患の治療にTCAMを使うことを補完するものとして、Ngan-gasはイボガを使って、患者をどのように治療していくべきかについて情報を求めたり、患者に与えるべき追加の植物を学んだりしています。また、国内外でのイボガへの関心の高まりが、伝統医療と現代医療を最終的に結びつける鍵になるかもしれないと考える情報提供者もいました。

**TCAMの法的地位**の欠如世界保健機関（WHO）は、サハラ砂漠以南のアフリカでは、相当数の人々が一次医療の必要性からTCAMに依存していると推定しているが、この地域におけるTCAM使用の全体像を記述する研究証拠は依然として不足している。過去20年間、WHOアフリカ地域事務局は、アフリカの保健システムにおけるTCAMの役割を促進するために、ザンビアのルサカでアフリカの首脳によって承認された地域戦略の実施を主導してきました<sup>11</sup>。

ガボンでは TCAM は合法です。したがって、野生のイボガを収穫し、国中で輸送することを許可されるには、伝統療法士として登録する必要があり、これによって一定の保護と権利が与えられる。しかし、州には伝統医学の実践を規定する公式な法律や規制の文章がない<sup>12</sup>。このように州レベルの指針がないため、伝統療法士は法的地位の規制を主張するために自らを組織したが、まだ成功には至っていない。

もし、政府が私たちの医薬品を認めようとしないのであれば、私たちは努力を続けるでしょう。私たちのところに来る人たちは、治療を受けて、ケアされて、幸せになります。そして、それこそが私たちの役に立つことなのです。私たちは人類にとって有用な存在なのです。私たちは、困難があるところに解決策をもたらすのです。[E7-S.Mousounda\_19:50]



リーブルヴィルの薬局方・伝統医学研究所（PHAMETRA）で展示されている伝統医学製品。©Ricard Faura

## 工場



オゴウエ・イボンド県アドウエのコミュニティ農園で行われたイボガの苗（手前）と入信式。©Ricard Faura

## イボガ

**IBOGA とは何か？** ガボンで、この植物と関わりのある人たちにこの質問をすると、たいがい異なる見解があり、それが非常に密接に結びついています。共通する見解は、イボガは治療的でイニシエーション的な薬草であるというものです。また、イボガはスピリチュアルな薬であり、その効果は実証済みであり、それはこの植物が持つ神聖な特性によるものであるという意見もあります。

しかし、イボガとは何なのか、誰なのか？ イボガとは、スピリットや霊界と私たちをつなぐ、魂を持った人である、と定義されることが多い。私たちは、イボガの働きによって、自分たちのコミュニティが「作られる」、あるいは「作られる」ことを実感している人たちに話を聞くことができました。彼らは、自分たちのコミュニティで何世代にもわたって築かれてきた人間関係のすべてが、イボガによって紡がれてきたと理解しているのです。イボガを「聖なる木」と訳したポア・サクレは、そのようなものであり、何よりもコミュニティの形成と存続に不可欠なものと考えられているのです。

この町はイボガを使い切ることができない。なぜでしょう？ だって、私の夫、私たちの精神的な父、この辺りで見かけるすべてのものは、イボガのおかげだから... この町はイボガなしにはありえない。イボガがなければ、この町は本当に存在しないのですから。この町が存在するのは、そこにいる子供たち、ここにいる女性たちが存在するのは、この神聖な植物のおかげなのです。[E6-N.Mba\_23:57] とある。



イボガはどのように治癒をサポートするのか？イボガの語源はツォーゴ語、特に「癒す」という意味の動詞「ボガーガ」にあります。<sup>13</sup>したがって、イボガは「治癒する植物」である。ガボンでは、イボガは様々な身体的、精神的、感情的、霊的狀態において満足に作用する抗毒薬と考えられています。イボガは、その人にとって良くない火を消してくれる可能性があると思われています。ピグミー族は、この植物があらゆる種類の毒に作用すると断言しています。そのため、この植物で肉体的な浄化をする人は、有害な思考や感情、精神的な不満も浄化していると言われています。このように、ピグミー族はイボガの抗中毒メカニズムについて、古くから深い説明をしてきたのですが□1960年代にハワード・ロツォフがそれを公表して初めて世界に知られるようになったと言えます。

しかし、この癒しのメカニズムは、プウィティではどのように理解されているのでしょうか。イボガは、イニシエーションやヒーリングの儀式で使われるとき、その人の内面や精神とつながる。イボガがなぜこれほどまでに素晴らしい治療効果を発揮するのか、それを理解するためには、この重要な要素を十分に理解する必要がありますと、インタビュアーは述べています。イボガは、純粋な愛の植物であり、私たちの存在の最も深い正直な部分と私たちを結びつける植物であると考えられているのです。イボガは、人の欠点と良いところを示し、それによって新しい生き方の可能性を開く。そして、自分自身を深く知ることができるようになるのです。

*イボガはあなたの精神を目覚めさせます。本当に多くの反射神経を開くことができます。観察眼が養われます。言語感覚も養われる。あなたが望む分野で、あなたを成長させてくれるのです。[E10-Rekako\_50:11]。]*

ガボンでこの植物の世話役をしている人々の見解では、この植物は、意識の片隅に残っているものも含めて、過去の経験を建設的に見直すことによって、精神を浄化し癒すものである。イボガは、自分の内面と外面のつながりをはっきりと見ることができ、個人、家族、地域社会を苦しめている苦しみや問題の深い本質を洞察する力を与えてくれるのです。そのため、イボガは「真実の木」と呼ばれることもあります。イボガは、普段は気づかない自己の側面を明らかにする不可解な声として、また、強いビジョンや道徳的な要素も含む体験として現れる。

回答者の中には、イボガがオピオイドなどの物質依存症の治療に効果的であるのは、まさにこれらの要素によるところが大きいと言う人もいます。もし、物質依存を治療するのがアルカロイドだけであれば、効果がなくなれば、その効果もなくなってしまうというのが彼らの主張である。しかし、イボガはそうではなく、その効果が持続することが多いのです。体験後、個人の意識の中に小さな空間が残り、それが効果を定着させ、持続させるのだという。

*イボガは真実の木です。昨日、イボガのことを聞いてきた娘の一人にまで言ってしまった。実は嘘をつかない。ありのままの真実を教えてください。それを学ぶのはあなた次第ですが、彼らは真実を教えてください。[E7-S.ムサンダ\_55:05]。]*

これらのコミュニティでは、イボガの依存症に対する治癒力は、植物の精神に関連しているとされています。イボガは人々を自分自身と結びつけるので、精神に関連する病態を取り除くことが可能になるのです。

*イボガは、遠くにいる人が自分の中に自分を見つけるのを助けます。そして、多くの病理がひとりで落ちていく過程でもあるのです。ケアは、その人が自分自身をよりよく知るための旅の中に見出されます。これが旅なのです。この一歩を踏み出すことができたとき、その人はもう薬物やアルコールに手を出そうとはしません。これが、私たちが本当に特別な結果を見ることができた、これらの病理の秘密なのです。[E2-N. アリステイド\_11:01]*

イボガに起因する精神的な能力は、西洋の生物医学的なモデルや認識論的なパラダイムの外にあります。イボガの治療的特性は、西洋で理解されている精神的健康の改善や個人的成長（より良い人生を送るためのスキルを得ること）の言語を通してブウィティ族に説明することができます。この文化翻訳のプロセスにおける課題の一つは、イボガが人間の精神に影響を与えるため、生物医学的な用語で簡単に説明することができず、科学的な機器で簡単に測定することができないことです。しかし、ブウィティ族のコミュニティでは、この植物の治療力は霊的なものであり、薬の強さと方向性は霊界、つまりスピリットから変更されることは明らかである。西洋の心理療法や薬理療法でも、他の薬ではなかなか治らない病気（依存症など）を、この植物による治療で治すことができるのは、このようなイボガの特別な特性によるものです。このように、イボガは補完医療に適していると、伝統医学の実践者たちは言います。

**BETTER THAN WELL** ブウィティのイニシエーションによると、具体的な癒しの必要性がなくても、イニシエーションを行うことを決めることができるそうです。イボガは、精神的な気づきと視点の変化をもたらします。イボガは、精神的・霊的なレベルでの成長の機会を提供し、よくなるよりよくなる機会を提供します。イボガは精神性を高め、目に見える世界、目に見えない世界とのつながりを育み、他者、コミュニティ、自然界との有意義な関係を強化することをサポートします。これらの改善により、イボガは入門者向けの治療効果があり、予防的な健康のためのツールとしての可能性を持っています。

さらに、家族や地域社会の問題の本質を理解したい人が、イボガを始めることもできる。インタビューによると、イボガは、個人を超えたシステム的な問題を理解し、明確にする機会を与えてくれるそうです。前述のように、イボガはイニシエーションを受けた人をより深い自己と結びつけるだけでなく、普段は手の届かない他のスピリチュアルな知識とつながる扉を開いてくれるのです。

*親が病気でも、息子や夫が病気でも、頭を壊すような問題があるときにイニシエーションをする。深刻な問題があればイニシエーションを受け、ポワ・サクレを食べ、どうなるかを見る。これでいい。[E9-M.Cadi\_14:30]*

伝統的なセラピストは、イボガが知識、洞察力、どの植物や療法がそれぞれの患者に最も適切であるかを明確にするためのアクセスを与えてくれると説明する。しかし、インタビューに答えた人々によると、このような知識を与えてくれるのはイボガではなく、むしろ儀式空間の中で施術者とつながる霊的な力であることを明確にすることが重要である。また、これらの霊的な影響とつながるためには、まず実践者が謙虚に精霊（スピリット）に助けを求めることによって、自分自身を浄化する必要があることも強調されている。

**開始時の投与量**ガボンでは、イボガは主にイニシエーションやヒーリングの場面で、さまざまな形や量で服用されています。一部のンガン族によると、この植物は根の樹皮だけでなく、茎、葉、果実にもアルカロイドが含まれていますが、その量ははるかに少ないそうです。イニシエーションの儀式では、イボガは様々な形で摂取されます。例えば、根の皮をイボガの他の部分と組み合わせ、他の神聖な森の植物と一緒に蜂蜜を混ぜた団子のような形にして食べます。また、乾燥させた根の皮をそのまま、あるいは水と一緒に飲むという摂取方法も一般的です。

*調理法もいろいろあります。すりおろして生で食べることもできます。また、乾燥させて粉にすることもできます。[E11-H.B.Elie\_17:54:56]*

投与量はティースプーン（小さじ）で測られることが多い。しかし、今回の視察では、ある儀式で一人の入門者（バンドジ）にティースプーン7杯程度が与えられたのに対して

また、ある人は 42 錠まで投与されました。どちらの場合も、植物は重要な効果を発揮し、儀式の指導者が理解する適切な量に従って、管理された安全な方法で治療されたことが注目されました。さらに、Dissoumba のイニシエーションなどでは、ティースプーン 80～100 杯分の量を食べることもあるようです。このイニシエーションでは、一種の昏睡状態になることが予想されるため、針で突いて反応がなくなるまでイボガを投与します。ディサンバのマスター（ニマ）を目指す人は、このトランス状態を乗り越えなければなりません。この儀式では、精神的・霊的なレベルではあるが、人は死んで生まれ変わる必要がある。ある儀式では、イボガを摂取しないか、ごく少量しか摂取しないが、ある儀式では、深いトランス状態に入るまでイボガを摂取する。

投与量の決定方法については、年齢、経験、イボガの種類、意図など、様々な要素が考慮される。しかし、インタビューによると、適切な服用量は、スピリットから情報を得たンガンガが決定することが明らかになっている。

*あなたが無視しているように見えるのは、あなたが本当に無視しているのは、イニシエーションはボア・サクレについてではない、ということです。イニシエーションとは、木のことでなく、スピリットのことなのです。イニシエーションでは、標準的な量のイボガを与えることはできません。なぜか？それは、スピリットがあなたに姿を現すからです。イボガがあくまでも、スピリットと接触できるようにするためのサポート、ファシリテーターなのです。だから、プウイティが許してくれば、私が話しかけると、スピリットがイニシエイトに姿を現すのです。スピリットの導きがなければ、私を与えるべき木材の量を計ることは難しいでしょう。[E3-SP.Ovono\_01:52:19]*

少量または極少量ガボンの情報提供者の多くは、儀式で初心者のために大量にイボガを摂取した経験があると話しています。場合によってはこれがイボガを摂取した最初で最後の機会であった。また、イニシエーションを受けた人が、儀式に同行する際に低用量のイボガを摂取するケースもあります。また、入門してしばらく経つと、儀式以外でも、たまに、あるいは定期的に（例えば数日おきに）、イボガを微量摂取する人もいます。

その動機は様々で、健康への効果を期待するためや、関心のある問題への洞察を求めるためなどです。イボガを少量摂取すると、疲労感、空腹感、睡眠を軽減し、注意力を高めると言われています。インタビューによると、少量のイボガを摂取すると、男性の性的エネルギーを高め、男らしさを増すことができるそうです。

*私は、疲れている時、気分が悪い時、たまたまイボガを飲むことがあります... イニシエイトとして、気分が良くなり、考えが明確になるためにイボガを飲むことがあります。[E8-D. Ditengou\_08:14].*



水源林省主催の名古屋議定書説明会で展示されたイボガの実、マイクロドーズカプセル、イボガ根皮の半分。©Ricard Faura

## イボガ再生とサステナビリティ

イボガがもたらす健康イボガは、昔からコンゴ盆地の森林で自由にたくさん生えていたため、コミュニティはイボガを栽培する必要がなかったのです。イボガが必要なときは、森に出かけて行って採取していたのです。場所によっては、村の中で死者の墓に植えることもある。この場合、イボガは墓を守ると同時に、そこに埋葬された人の霊を顕現させる役割を果たします。また、ヒーラーも庭に植物を植えていることがありますが、儀式に使うイボガというよりは、護符や精霊を引き寄せるためのものであることが多いように思います。このように、小規模な栽培方法についての知識はあっても、イボガ栽培の強い伝統があるわけではなく、そのプロセスについてはほとんど知られていないのが現状です。ただ、イボガは森の中でよく育つ場所とそうでない場所があることは知られています。近年、野生のイボガは地元コミュニティにとって入手困難となり、購入費用も高騰しています。インタビューした数人のンガンガによると、イボガは確かに多くの公有林から姿を消したが、ある場所ではまだ豊富に生息しているとのことであった。ガボンでは、イボガを収穫したり購入したりすることができるという事実は、ガボン全土で同じではないことが、ンガンガから提供された情報によって明らかになりました。ある地域（例えば南部の地域）では、情報提供者はイボガを入手することにそれほど困難を感じなかったが、他の地域では不足が深刻であるようである。このような状況は、体系的な証拠を提供できるインベントリや詳細な持続可能性調査の必要性を物語っている。

**都市部におけるボア・サクレへのアクセス。**農村部のコミュニティは、イボガへのアクセスについて大きな懸念を持っていないようですが、不足に関する懸念は、リーブルヴィルと河口の都市部でより高くなっています。都市部では入手可能であっても、質、量、価格に影響があります。ごくまれに木材の品質に関する問題が報告されているが、これは *T. イボガ* に似た他の植物を代わりに入手することがあることと関係があるだろう（イボガの偽兄弟についての詳細は次章を参照）。しかし、品質に関しては、私たちが話を聞いたニマ族やンガンガ族の誰一人として、このことをあまり気にしていませんでした。最も懸念されるのは、都市部における希少性と価格の高騰である。

情報提供者が共有した見解によると、いくつかの要因がイボガの入手に影響を及ぼしています。

### 1. 国際市場で販売するための違法な収穫物

草の根組織である BOTF (Blessingsofthe Forest)<sup>14</sup> は、数年前から、国際市場がイボガの持続可能性を圧迫しているとして警告を発してきた。1) イボガから抽出したイボガインを問題物質（主にオピオイド使用障害）の治療に使用すること、(2) アルカロイドを豊富に含む根皮を国際精神・スピリチュアル共同体の儀式に使用することです。BOTF は、このままではイボ・ガディが公の場から消えてしまうという重大なリスクを警告しています。この組織は、野生生物法執行機関である *コンサベーション・ジャスティス* と協力し、個人、グループ、さらには密猟組織によって、ガボンでイボガが違法に収穫され、カメルーンから国際的に取引されている事例を数多く記録している。

カメルーン人の密猟者は、ウェブ上でのビジネスの 90% を占めています。カメルーン人がガボンに行って、ガボンで密猟して、ガボンから帰ってきて、「カメルーンから売った」と言うんです。[E12a-Y. Guignon\_59:48]

密猟されるイボガは、依存症治療や精神・スピリチュアルな儀式に使われることが増えているイボガやイボガインの国際市場向けです。ガボンの都市部では、イボガはほとんどなく、様々な供給業者や密輸業者が、リーブルヴィルの地元市場よりもはるかに収益性の高い国際市場に売ることを好むため、地元市場は直接影響を受けています。

## " 2.警察による国内貨物の差し押さえ

様々な情報源によると、ガボン国内でイボガを輸送することは困難であるとのこと。これは、警察がリーブルヴィル向けのイボガの出荷の多くを組織的に阻止していることに起因しているとする者もいる。2019年2月、イボガのすべての国際輸出が停止されました。しかし、現地での使用は認められているものの、現地で使用するために誰かが届けることができるイボガの量は、まだ明確にされていない。このような状況の中、国内で運搬されているイボガが警察に取り押さえられた場合、それが国内使用なのか、不正な国際市場なのかを判断することは困難である。

*街中にいるのはご存知ですよね。街ではイボガは極めて珍しいので、内地からやってくるのです。内地からのルートで、私たちは多かれ少なかれ、公権力から嫌がらせを受ける。検問所や国境でイボガの出荷を止めると、イボガは禁止されているという口実をつけられることが多い。しかし、内地では禁止されていないのです。内地ではなく、外側で禁止されるべきなのです。というのも、イボガの供給者である収穫者が動揺し、価格を吊り上げてしまうからです。[E7-S.Mousounda\_23:11]*

いくつかのソガンガは、新しい規制により、イボガを使用したり、持ち歩いたりすることができなくなったことを警察官から告げられるという政策上の事件を経験したことを話してくれました。この命令は国内でのイボガを規制するものではありませんが、現実には警察がイボガを見つければ没収される可能性があるのです。複数の情報提供者が、実際にこのようなことが起きていると指摘しています。

*既存の法律は、コミュニケーションや説明が不十分で、現場の警察にも理解されていないと言えるでしょう。私が調査をしているときから、ガボンの伝統的な人々、特にリーブルヴィルの人々が、イボガ密売との戦いの名の下に、マウンバからリーブルヴィルまでのイボガ輸送者を何度も恣意的に逮捕していることについて、何年も前から不平を言っているのを聞いています。[E12c-Y.Guignon\_20:15]*

複数のインタビューによると、イボガの輸出が違法になるずっと以前から、少なくとも10年以上にわたって警察によるイボガの押収が行われていたことに注目する必要がある。押収された貨物がどうなっているかは不明である。

## " 3.伐採産業

森林の100%は公有地ですが、半分以上は伐採権に委ねられています。<sup>16</sup>

ここ数年、民間企業（主に伐採業者）は、森林を集中的に開発するために、森林をフェンスで囲っています。その中には、コミュニティが伝統的にイボガを収穫してきた場所も含まれています。多くの場合、伐採会社は、村人が薬草を採取するために先祖伝来の森に入ることを許しません。そのため、ソガンガ族の人々は、村で使用する成熟したイボガを探すために、何日もキャンプをしながら遠くまで歩いていかなければならなくなりました。

*[そして、この伐採会社が、その地域の領土をすべて占拠してしまったのです。だから、今、あそこでイボガを採ることはできないんだ。【昔は行けたんだけどね。そして今、【地名】の左側にエリアがあるんです。そこが今、イボガがあるところ。そこも、簡単に行って帰ってくることはできないんです。2日、3日、4日とキャンプをしないと、また出られないんだ。[E13-B.デボラ\_10:17]。]*

特に都市部やその周辺では、ポア・サクレの希少性が高まっており、再生と創造性の重要性に対する集団的な意識の覚醒につながっています。国内外に広がるイボガ市場は、既存の天然資源ではまかないきれないという事実がある。

全世界の人がイボガを欲しがったら、みんなの分が足りなくなっちゃうよ。[E5-Tatayo\_01:20:49]です。]

ガボンのすべての関係者の間で、戦略と行動は「耕せ、耕せ、耕せ」というマントラに導かれる必要があるというコンセンサスが高まっています。

## イボガの栽培・収穫について

種としてのイボガイボガ (*Tabernanthe iboga*) は、コンゴ盆地 (ガボン、カメルーン、赤道ギニア、中央アフリカ共和国、コンゴ共和国、コンゴ民主共和国) を中心とした中央アフリカに自生するセリ科の低木である。ガーナやコートジボワールなど、ギニア湾に隣接する国々では、イボガが民間で栽培され始めていますが、これらの地域では、以前は野生で生育していたという証拠はありません。中央アフリカでは自生しているが、根皮を使った儀式やイニシエーションは、主にガボンの農村で行われており、隣接する赤道ギニアやカメルーンでは、ファング族が住んでいる地域が少ない。赤道ギニアとカメルーンに隣接するファング族が居住しており、彼らの儀式は最近になって取り入れられたようだ。根の皮には、主要なアルカロイドであるイボガインのほか、12種類のイボガアルカロイドが含まれている。<sup>17</sup>

1819年にイギリスの探検家 Edward Bowditch がこの植物の薬用について言及したが<sup>18</sup> 1864年にフランス海軍の医師 Griffon du Bellay がガボンとコンゴでこの植物の根を刺激物や媚薬として使用することを科学文献に記録した。<sup>19</sup>

Bellay はこの植物のサンプルを収集し、フランスに持ち帰り、この地域の方言名の1つである「イボガ」と呼んでいました。その後、1889年にアンリ・バイヨンによってタベルナンテ属が記載され、1種のタベルナンテ・イボガに適用されたが、彼はこの植物がタベルナエモンタナ属に分類し直される可能性を示唆している。



Blessings Of The Forest の支援のもと、A2E 協会がオゴウエ・イビンド県エビエンで栽培した様々な種類のイボガの実。©Ricard Faura

**イボガ品種**。タバナンテの最初の分類では、中央アフリカに限定された 2 種が含まれていた。1895 年、Otto Stapf は *Tabernanthe manii* を含む 7 種類の *Taber-nanthe* を記載し、属を統合した。しかし、最初の分類から 125 年経った今、その正確さに疑問の声が上がり、再びこの分類作業を行い口口度は各品種のアルカロイドの相対的な質と量を記録する必要性を提唱する人々がいる。

いわゆる異種間の交雑が観察され、多かれ少なかれ子房が融合した果実植物が誕生しています<sup>21</sup>。

ガボンで発見されたイボガの品種は、樹形、果実の色や形、花などの物理的性質の違いにより、肉眼で区別することができる。しかし、決定的な分類学的研究がないため、これらの品種がすべて、現在定義されている *Tabernanthe iboga* 属に属するかどうかは疑問視されている。実際、Nganga の研修では、どの品種をどのような病態に使用し、どのような効果を期待するのかが教えられています。

アルカロイドの濃度という効能の違いは、品種というよりも、植物が育った環境条件に起因していることが多いようです。

この品種を取っても、他の品種を取っても、効能は変わりません。この "ポア・サクレ" を、下流にあるものと比べてみると、そこでは全く違うことがわかる。ここは海沿いですが、そこは土が本当に純粋で、構成が違います。味は同じですが、美德はもはや同じではありません。ここでは、より効果的な[アルカロイドが多い]土壌のタイプの問題なのです。[E14-M.Vincent\_02:07:56]

イボガがどれくらい生きられるかはわかっていません。あるナガンガ族によると、イボガの寿命は 80 年から 100 年で、500 年という説もあるそうです。高さは 6 メートルくらいになるものもあり、その高さになると根や枝が太くなる。

教師用の「ボワ」、イニシエーション用の「ボワ」、精神疾患用の「ボワ」、高齢者用、非常に興奮した人用、非常にリラックスした人用など、さまざまです。そして、ソガンガ族の間だけで伝わる名前をつけているのです。[E12b-Y.Guignon\_02:17]

栽培の面では、より多く植えられている品種があるようです。しかし、複数の品種を同時に栽培することは、まだ誰もマスターしていないようで、一般的な名前すら知られていない。イボガの栽培は、地域社会にとっても、農家や植物学者、起業家にとっても初めての活動であり口口先行研究や蓄積された経験の恩恵がない状況での活動である。

**誰がイボガを栽培できるのか？イボガを栽培することは、入門者であろうとなかろうと、誰でも自由でできますし、新しい植物が生えるたびに祝福されます。しかし、ブウイティの伝統では、イボガは神聖な木であり、健康な人、あるいは "清らかな精神" を持つ人だけが扱えるという伝統があることを、初心者の方は知っておく必要があります。多くの神聖な植物と同様に、栽培の過程では、意図と畏敬の念が最も重要である。**

**栽培方法：**イボガ栽培は大規模に開発されたことはないが、この植物の栽培と増殖に有利と思われるいくつかのプロセスが知られており、村ではそれに従った栽培が行われている。ブウイティ族のコミュニティでは、イボガの繁殖方法を示す 4 つのカテゴリーがある<sup>22</sup>。

"**野生で繁殖する。**この植物は自力で増殖され、大きな成功を収めている。イボガは、その実を食べ、種子をコンゴ盆地の森林地帯に撒き散らす様々な動物に助けられながら広がっています。その中には、ゾウ、ヒヒ、ゴリラ、ヤマアラシ、オウムなどが含まれ、これらの動物とイボガは共生関係を築いているが、その詳細は謎に包まれたままである。

"**既存の植物の根を利用した繁殖。**イボガを栽培する人の多くは、ただ貪欲に木全体を根こそぎにし、植え替えをせずに枯らしてしまいます。植物を再生させるための良い方法は、木が自己回復し、強く成長し続けることができるように、常に根の一部をその場に残しておくことです。

"**挿し木からクローンを作る。**ヒトデのように、茎のどの部分からでも新しいイボガが生える。折れたり切れたりしたイボガの枝を地面に植え直すと、その根元から根が生え、新しい木が育ちます。3～5年後、新しい根の皮に十分なアルカロイドが含まれるようになると、再び収穫できるようになる。

"**種子のこことイボタノキの果実には、植えるための種ができます。**果実を放置して腐らせると、種子が発芽し始めます。発芽したら苗床に植え、高さ10cm程度になったら移植する。

植林地を訪問した際、多くの生産者は、効率的な長期植林を実現するために、種子栽培に強くこだわっていることがわかった。挿し木に比べ、根が大きく育つので好ましいというのが生産者の説明でした。さらに、この方法では、各植物のトレーサビリティが確保されるため、国内および国際的な品質基準に従って一貫して生産・管理され、国際市場で合法的に販売することが可能になるとのことでした。



オゴウエ・イビンド州のエビエン共同農園で、子供にイボガの育て方を教えるA2E 協会員。©Ricard Faura

**収穫の準備**イボガは神聖な植物であるため、収穫の際には常に心を込めて扱われる。収穫の際には、ンガンガは精神的に健康で清潔でなければならないので、そのための準備をする。そのため、収穫の準備に余念がありません。



伝統と儀式に則ったもので、あらゆる性的接触を避け、アルコールやあらゆる種類の物質を摂取せず、少なくとも3日前から特別な食事を想定するなど、さまざまな要素で構成されることがあります。また、イボガを切るための道具も、このためだけに使われる。そして、収穫の時には、ンガンガはイボガに許可を求め、イボガの霊に話しかけ、霊界とつながりながら、常に謙虚で深い敬意をもって、自分たちの意図を説明します。

もし私たちが植物を購入したり、他の人にカットしてもらったりする場合、この仕事を選んだ人の手順を確認しておかなければなりません。そして、この人は暗い部分を切り、見える部分を植え替えなければならない。[E5-Tatayo\_01:26:33]。]

**収穫の方法。**イボガの根を収穫する際には、少なくとも5年、理想的には10年の樹齢が必要であり、どんなに背が高くても良いとのことでした。また、根こそぎ収穫する場合は、前述のように根の一部を地面に残し、必ず数本の挿し木をして再根付させる必要があります。つまり、少なくとも1本の植物がその場所に生えることを確認せずに収穫してはいけません。挿し木は1本より数本の方が良いということが強調されました。また、植物が非常に大きい場合、収穫者はその一部だけを採取し、残りは再成長させるという方法をとることもできます。このプロセスには約3年かかります。

## 非伝統的な使用に関する見解

**外国人への Bwiti の伝授。**歴史的に、ガボンの多くのブウィティの実践者は、アフリカ人以外の人々、特に白人がブウィティに入門することに反対してきたことを知ることは重要である。この恐怖と不信は深く、歴史的な経験に基づくものである。もし白人や権力欲の強い外国人がこの強力な知識を手に入れたら、将来自分たちの利益のためにそれを利用し、過去に彼らが地元の資源で常に行ってきたように、ガボンの様々な民族に対してそれを利用できると考えられていたのです。そのため、今日でも多くの人が、好奇心旺盛な訪問者にブウィティの秘密の数々を再公開したくないと考えるのは理解できることである。

ブウィティは、中央アフリカでまだ植民地やポストコロニアルの勢力に奪われていない最後の隠れ拠点と考えられており、その中には、ヨーロッパやアメリカに加えて、中国、インドネシア、アラブ、イスラエルの企業も含まれている。そして、彼らの不安は杞憂に終わることはない。実際、イボガ、そしてブウィティが現在さらされている最大の脅威は、欧米や国際的な製薬企業によるものである。大手製薬会社は、イボガインの医療化を利益創出の機会と捉え、ガボンの人々や森との連帯と互惠のメカニズムを確立することにほとんど関心を示さない。

しかし、私たちが話を聞いた人たちは、これらの問題は白か黒かではなく、ガボンの人々がイボガに対する国際的な関心をどのように受け止めているのか、多くのグレーゾーンがあることを注意深く述べていた。今こそ、イボガがどのように保護され、尊重されるべきかを見極める時なのです。現在、ブウィティの実践に対する複雑な挑戦は、内部から、具体的には、繁栄しているエヴァンジェリカルな教会からであるようです。この新しい文脈では、地元の精神的伝統に純粋に興味を持ち、それを尊重するガボンにやってきた外国人は、先祖伝来の伝統を守るための新しい、思いがけない味方と見なされます。

したがって、私たちがガボンで出会ったブウィティ族のコミュニティは、一般的に、この植物とその特別な特徴が、全国的に関心を高めていることに感謝の意を表していました。また、ガボンにおけるイボガは、世界的にブウィティと呼ばれる様々な儀式を通じた知識、価値観、精神的実践のより広い枠組みの一部であることが、これらの会話からうかがえました。一部のスピリチュアルリーダーは、イボガはガボン人やブウィティの実践者だけのものではなく、人類全体のものであると強調しました。しかし、彼らは次のようなニュアンスを付け加えています。

イボガは「すべての人」のためのものですが、先祖代々の知識に導かれた方法で注意深く扱わなければ精神的な苦痛を生み出し、健康や生命に大きなリスクをもたらす可能性があります。したがって、イボガの扱い方に関するこれらのプロトコルは、ブウィティの中で収集され、全体性を包含する宇宙の秩序を翻訳するものであると認識されています。

**北欧では非儀式的な利用が行われている。**ガボンでは、イボガは全人類を救うためにこの世に生まれた一元的な薬として考えられている。そのため、病気になった人は誰でも、ブウィティに入門することなく服用することができる。しかし、植物の守護者たちは、精神的な道具として使用するためには、ブウィティへの入門が推奨されると主張しています。イボガを使用する病人は、その自覚の有無にかかわらず、精神的な道を開くことになり、この精神的な開きは、新しく奇妙な体験として現れることがあります。そのため、病気を治すという意味でも、知識保有者はイニシエーションを勧めるのです。

ブウィティの実践者によると、イボガを不敬な方法で使用すると、精神的な次元を体験したときに恐れや不安が生じるという。イニシエーションで提供されるセットと設定は、恐怖に対処し解決するための安全な容器を提供します。伝統的な儀式の使用は、スピリチュアルな認識論の中にすべての経験を取り込み、経験の複雑さに安心と静けさをもたらす、経験の統合をより深めることができる。

*なぜなら、イボガは全人類を助け、病気に健康をもたらすためにやってきた精霊だからです。[しかし、イボガを摂取すると、ある種の感覚が目覚めるのです。あなたは、他の方法...人生における物事の新しい見方を持つようになります。イボガは、あなたが知らないうちに、内面的に健康でない人を認識させることになる。そのため、何が起きているのかを説明する必要があります。スピリチュアルな薬であるイボガを服用するので、私たちはそれをうまく説明する必要があります。[E10-Rekako\_38:45]です。]*

**依存症や問題のある薬物使用に対する治療** 1990年代には

ガボン人として初めてイボガインからイボガインを抽出したジャン・ノエル・ガシタ教授のもとに、イボガインの抗中毒作用を発見したアメリカ人ハワード・ロツォフが訪ねてきました。2010年にロツォフが亡くなるまで、2人は親交を深めていった。現在、欧米、特に北米におけるアヘン危機は、一般的にガボンのブウィティの実践者たちとはかけ離れたものである。しかし、ガボンの関係者は、依存症治療のためのイボガインに対する国際的な関心が高まっていることを認識しつつある。

前述のように、ニマ族は、イボガはガボンの人々だけでなく、全人類を助けるために存在すると主張しています。つまり、イボガは、世界中の人々が薬物中毒などの問題を克服するのを助けるために存在しているのです。もし、自国の外国人がイボガとブウィティの知識を人類のために使うなら、彼らはガボンのブウィティ・コミュニティから常に尊敬され歓迎されることでしょう。

とはいえ、ブウィティのコミュニティでは、イボガを非入門的かつ世俗的な文脈でどのように使うことができるかについて、論争や意見の相違があるようです。ある人は、世俗的な使用はブウィティの要求から除外されると信じていますが、他の正統派の信者は、ガボンであろうと他の場所であろうと、またガボン人であろうと外国人であろうと、治療のためのイボガの使用はブウィティのプロトコルに従わなければならないと主張しています。

**儀式とプロトコル**イボガの扱い方を学びたい人は、バンドジ（入門者）、ンガンガ（精神修行者）、カンボ（寺院の守護者）、ニマ（マスター・イニシエーター）と、いくつかの段階を経て学ぶ必要があります。このような学習には時間がかかるため（ニマになるまでには10～15年かかる）、ブウィティ・コミュニティは偽者（十分な訓練を受けていない人）を懸念しています。

彼らの行動が伝統と修行者の評判を傷つける可能性があるためです。スピリチュアルリーダーたちは、マンガヤニマになるためのトレーニングを正式に規制することを求めています。また、既存のプロトコルが尊重されない場合、プウィティの知識、ひいてはイボガに関する教えを共有することを許可したくないというニマもいるのはこのためです。

*私たちは、「プウィティ」の伝統の唯一の目的が、人類の意識を目覚めさせることであることをよく理解しています。それは、全人類に向けられるべき伝統なのです。私が少し残念に思うのは、プウィティのマスターたちの中に、私たちの知識を伝えるべきでないと考えている人たちがいることです。もちろん、そんなに大きく開くべきではありませんが、私たちは伝達の規範を尊重しなければなりません。[...]*

*しかし、その伝達は、もちろんコードに基づいています。この規範は、私たちが皆に尊重するよう求めているものです。[私にとっては、発信を拒否することは禁じられていますが、無秩序に発信することも禁じられています。コードは尊重されなければなりません。[E3-SP.Ovono\_01:47] をご覧ください。*

インタビューによると、誰でも（一般人も含めて）イボガを摂取することができるが、イボガを使った儀式やセレモニーを促進したい人は、プウィティのプロトコルや手順を学ばなければならず、そうしないと肉体的・精神的な事故が起こるかもしれない。そのため、「手順」（E14-M.Vincent）と呼ばれるものを学び、それに従うことが重要です。手順が守られないと、ファシリテーターによる不適切なイボガの使用は、時に重大な事故や、治療を受けている人の死につながることもあります。

**精神的な次元に取り組む。**プロトコルと手順によって、スピリチュアル・マスターは、イボガを摂取するのに適しているか、待つべきか、永遠に断つべきかを判断するなど、その人の精神的・肉体的健康について重要な決定を下すことができます。霊能者（ニマ）は、例えば「吸血鬼」と呼ばれる生命エネルギーを吸い取る霊がいるかどうかを調べ、もしいるのであれば、イニシエーション前にそれを排除することができなければなりません。イニシエーションの前に霊的な相談をするとき、ニマは、例えば、肝臓や腎臓などの臓器を癒すための内部浄化のプロセスを深くするために、バンドジを続ける前にもっと多くの仕事をする必要があると考えるかもしれない。

その初期に行われるスピリチュアルコンサルテーションでは、スピリチュアルマスターは、何かが間違っている兆候が現れた場合、バンドジにどんな薬を与える必要があるかに関しても指導を受けることになります。イボガの効果を高めたり、低めたりする植物や、前の植物を打ち消すために与える植物がある。

しかし、世俗的な治療法では、彼らにとって最も強力な次元である神秘的、霊的な次元とは結びつかないという警告が、インタビューイたちから発せられている。

**悪い習慣や搾取を避ける**スピリチュアルマスターによると、イボガの儀式以外の使用は、悪習慣や搾取につながる可能性があるそうです。具体的には、イボガの不敬な商業化や治療への応用は、現在、ガボンやその他の地域のプウィティの儀式に3つの悪影響を及ぼすと考えられています。

**世俗的な文脈での事件**世俗的な文脈では、イボガの摂取に起因するネガティブな事件がかなり多く発生していますが、この種の事件は通常、イニシエーション中には発生しないと言われています。この意味で、深刻な負の事件を避けるためには、西洋におけるイボガの使用は、プウィティの儀式でなくとも、通過儀礼の文脈で精神的な道具として扱われる必要があると考えられることがあります。

*俗人は、自分たちがしていることの結果を知らずに、神聖な薬を使う...。不敬な人が若者にイボガを与えるとき、彼らはその理由を知らずにその人を連れて行き、事故が起きた場合、何が起きているのか理解できません。何がうまくいかなかったのか？彼らはどうやって理解するのでしょうか？[E14-M.Vincent\_01:43:04]*

商業的搾取と輸出イボガは、国際市場に輸出するために、商業的な利益によってますます搾取されるようになっていきます。このような傾向は、全国的にイボガの入手、供給、コストに影響を与え、伝統的な慣習を危険にさらしています。

今日、私たちは、イボガの搾取と外部への輸出を止めなければならないという法律ができたという事実を拍手を送ります。を望んでいるので、私たちが喜んでいことがわかりいただけたと思います。

この製品を海外に送る前に、あらゆる手段で地域のためにこの製品を確保することを表明します。[E14-M.Vincent\_01:43:04]

商業交流における互惠性の欠如。ガボンの人々は、国際的な関心と市場の拡大から利益を得ていない。イボガの国際的な使用の増加は、しばしば合法的でない方法によってガボンからこの文化的宝物を抽出することにつながり、地元の人々が利益を得ていない。国際的な企業が特許を求める一方で、伝統的にイボガを管理してきたコミュニティは、受益者として扱われず、認知すらされていない。

国際) クリニックでのイボガの使用についてどう考えるか？ 私たちには2つの立場があります。クリニックでのイボガの使用は、イボガが単に儀式的場で使用されるだけでなく、現代の医療の場で変容していることを理解しているからです。私たちは、2つの立場（受容と拒絶）の間を行き来していますが、それが問題の本質なのです。最初の立場は、私たちがイボガの搾取と一般人の使用から利益を得ていることを意味しています。しかし、これは問題です。今日、彼らは[イボガ]を商業的な回路に載せていますが、ガボンの経済回路には、我が国での保存のための影響を与えることはありませんでしたから。[E14-M.Vincent\_01:31:45]



霊界への旅に出る2人のバンドジ（入門者）。©Ricard Faura

## イボガで死亡？

あの世へのステップブウィティの修行者たちと死について話すとき、彼らの伝統では、死は単に自由時間の変化、つまり魂が肉体から精神世界へ移動することと考えられていることを念頭に置かなければならない。したがって、死について語る時、私たちはむしろ肉体的な死について語ることになる。このように、死は次の人生への扉であり、別のステージの始まりであり、別の人生の状態への通過点である。

死とは...なんと表現したらいいのでしょうか。実は、死は扉なのです。なぜなら、死後には別の人生があるからです。つまり、私たちにとって死は、それ自体が目的ではありません。別のステージへの旅なのです。[E7-S.Mousounda\_01:01:57]

また、イボガを摂取する際の旅は、肉体世界から霊界への旅でもあることを念頭に置く必要がある。そのため、この旅を「臨死体験」と呼ぶこともある<sup>23</sup>。重要なのは、自分を癒し、霊界での時間からできる限り多くのことを学ぶと同時に、いつもの肉体の現実に無事に戻ることである。

**霊的な原因による死**今回の訪問で意外だったのは、「イボガで死ぬことはありえない」というのが、インタビューに答えてくれた人たちのほぼ一致した意見だったことです。彼らによれば、イボガを摂取した後に誰かが死亡した場合、その死亡はすでに存在していた他の病気の原因によるものであると考えられるという。つまり、死亡した場合、考慮されていない健康状態があり、イボガがその問題を顕在化させ、その根本的な健康状態が死亡の原因となったということです。

実は、イボガは殺さないんです。殺さないんです。たくさん飲んでも死なないんです。死ぬ人はすでに病気だったわけで、人と同じように病院に行けば命を落とすこともある。しかし、伝統医学だけが、「イボガに殺された」と非難される。イボガは殺さない。イボガは純粋な治療薬であり、イボガは人間の身体と精神を回復させるのです。そして、時には死を記録することもあります。しかし、これらの死はイボガによるものではありません。[E7-S.Mousounda\_01:01:08]

具体的には、インタビューしたスピリチュアル・マスターたちは、イボガの摂取に伴う肉体的な死は霊的なものと関連しており、霊的な状態がソングから隠されている場合や、イボガを促進する人々がその死に対応し防ぐために必要な知識を持っていない場合に起こりうることを話してくれました。このようなイボガによる死に対するスピリチュアルなアプローチは、国際的な薬物治療クリニックで起こる死を伝統的な実践者がどのように見ているかを説明するかもしれない。最近摂取したサブスタンスや以前からあった健康状態を十分に公表していない患者や、他人に危害を加えた患者は、そのために困難やリスクを経験することがあります。伝統的な実践者の視点は、死が医師やイボガ/イネのファシリテーターが精神の問題に介入できないことに起因している可能性も示唆するものである。

というのも、私たちの家では、誰かを治療するという決意をする前に、霊とのカウンセリングを行うのです。それが一連のプロセスであり  
もしあなたが、彼ら（霊）の言うことと反対のことをしたいのなら、それはそれで（死が）訪れるのです。でも、私たちはそうではありません。ここでは、精霊と相談した上で、精霊の勧告を尊重するのです。[E1-A.Nlo\_44:56]。]

複数のインタビューが、イボガに関連した2種類の霊的あるいは神秘的な死について説明した。

"**霊的な殺人**肉体の世界ですすでに死んだ人の霊が住む霊界を訪れると、過去に深く傷つけたり、殺したりした人に遭遇することがあります。このような過去の出来事を霊能者に事前に相談するなど、適切な手続きを踏まないと、霊は復讐のためにその人を殺し、その霊はもう物理世界に戻れないようにすることがあります。

"**霊的な自殺**。また、霊界やそこに存在するすべての存在を訪れたとき、ここが自分の生き続けたい世界であることを実感する人がいることも、インタビューに答えてくれました。このような場合、肉体の生活に戻らず、自ら進んでそこに留まることを決意することもあるようです。

イニシエーションに参加するための準備は、このワークの重要な要素です。イニシエーションに参加する人がイボガを取る前に、ンガンガはその人に、他人に対して悪事を働いたことがあるかどうかを尋ね、特にその人が死んでいる場合は、それを自覚することが重要だからです。これは、前述したように、見逃すと悪い結果を招きかねない重要なステップであるとインタビューでは指摘されている。ンガンガの能力は、誰がこの仕事に適しているのか、いつ、どのように行うべきかを見極められるだけのものでなければならない。

**身体的な原因による死である。**ガボン人の中には、病気が重く、現代医学では解決できない場合や、私立病院で治療を受けるお金がない場合にのみ、ブウィティの治療を受ける人もいる。その時、最後の希望として伝統医療やンガンガ、イボガに頼るのです。中には、ンガンガを訪れた時点で、すでに健康状態が非常に悪い人もいます。

インタビューによると、問題は、患者が経験した病気をンガンガが知らないことがあることです。ンガンガは、スピリチュアルな診察がすべてを明らかにしてくれると信じているが、インタビューによると、現代医学が否定した奇跡を治療がもたらしてくれると信じて、ただ嘘をつく患者もいるそうである。そのため、治療を受けるためにブウィティのセレモニーを訪れ、自分の健康状態について真実を語らないまま死んでしまう絶望的な人がいるのです。また、伝統療法士が訓練不足であったり、正しい手順を踏んでいなかったりするため、治療前の霊的な相談で欺瞞を見抜くことができたはずなのに、こうした人が死んでしまうという意見もある。

どのような観点が正しいかは別として、スピリチュアルな相談がすべてのケースに有効であるわけではなく、イボガを大量に摂取する前に心電図などの医療検査を受けること、そして儀式の前にンガンガに正直に話すことが常に望ましいことは明らかである。

**イボガの偽の兄弟。**安全性に関して、重要な問題は、イボガを他の類似植物と誤認する可能性があることです。1944 年以来、「偽」イボガは文献で言及されており、特に、Stapf が記載した *Rauvolfia monbasiana* や *Pterotaberna inconspicua* といった同じセリ科の他の種に関連しています<sup>24</sup>。また、イボガ根の樹皮によく似た、*Rauvolfia vomitoria* という Apocynaceae があり、下痢、黄疸、性病、リュウマチ、蛇にかまれたときの治療、疝痛や発熱の軽減、不安やてんかん発作の鎮静、血圧降下に中国で広く使用されています<sup>25</sup>。

儀式で偽イボガを摂取したことによる事故死は、少なくとも 1 件確認されています。ガボンで植物学、特にイボガの研究への貢献が認められているジャン・ノエル・ガシタ教授は、ポート・ジェンティルでのブウィティの儀式中に姪の一人を失いました。ガシタ教授は、私たちが話をする機会があったこともあり、解剖を依頼したところ、死因はイボガの代わりに誤って摂取したラボルフィア・モンソニアナの摂取であると判明した。この不幸な事故後、ガシタ教授は政府に対し、儀式の場で死亡した場合はすべて解剖するよう要請したが、政府は拒否した。

どうやら、実がなっていない時のイボガと似たような見た目の植物が他にもあるようです。したがって、素人が見知らぬ土地で、目に見える実がないイボガを採取するのは危険である。

リーブルヴィルには大きな大衆市場があり、そこでは何でも買うことができます。イボガはそこで大量に売られていて、その製品を理解していない人がたくさんいて、実際に酩酊状態になります。[E15-C.Mathelin\_00:15]

知識の乏しい人がイボガの収穫や販売に携わると、うっかりこれらの偽の兄弟を収穫してしまい、死を含む事故につながる可能性があります。インタビューによると、イボガとして売られているものに、他の似たような植物が混入することは（たとえ無意識であっても）最近の現象ではないようです。しかし、ガボンの都市部では、前述のような調達の難しさから、より一般的な経験になっているのかもしれませんが。

## 市場、規制、科学

### 市場と互恵関係

**T. iboga** をイボガインの主要な植物源とする。議論されているように、*Tabernanthe*・イボガは、中央アフリカでブウィティを实践する数十の異なる民族の聖なる植物である。薬理的には、その精神作用のほとんどは、主要なアルカロイドの一つであるイボガインに起因しています。しかし、イボガインを生成する植物は *T. iboga* だけではありません。このアルカロイドは、アポンナセア科の様々な植物から抽出することができます。この科には、イボガインを産生する少なくとも 3 つの属（*Tabernanthe* □ *Voacanga* □ *Tabernaemontana*）と、イボガインの構造と密接に関連した他のアルカロイドがあります。これらの他のアルカロイドは比較的容易に半合成され、イボガインに変換される。したがって、これらの種は、精神薬理的に言えば、イボガ植物そのものに代わる論理的な選択肢として浮上してきた。

しかし、*T. iboga* は、根皮の形（60%～62%の治療者が使用）でも、そこから抽出したイボガインの形（49%～53%）でも、圧倒的に多い製品となっています。*Voacanga africana* は *T. iboga* の後塵を拝していますが、少なくとも 1 回はこの種から抽出したイボガインを使用したことがあると答えた治療者は 20% 以上であり、これは注目に値することです。また、*Tabernaemontana* や *Tabernanthe Manii* などの他の品種は、重要でない使用を示し、外れ値として表示されます<sup>26</sup>。

**トレーサビリティ（TRACEABILITY）**。トレーサビリティとは、市場に出回る製品を、その原産地から消費者の手に渡るまで、透明性をもって追跡することを可能にするプロセスのことを指します。イボガ根皮とイボガインの国際的な需要が高まる中、個人や団体はこの需要から金銭的な利益を得ようと、ガボン産のイボガ根皮を使用しています。

*T. iboga*。現在、ガボンから輸出されたイボガは、イボガまたはイボガインの治療を行うクリニックや、精神的なスピリチュアル・コミュニティによる儀式用として使用されています。上記のように、イボガインとイボガの両方に対する需要は、今後数年間で増加すると予想されます。また、イボガインの生産は、*Tabernanthe iboga* を主な原料とする外用薬から移行する可能性が高く、利害関係者は、*Voacanga africana* のような現在より高価な他の原料を最適化するか、合成または半合成原料を用いて開発しようとする。

このことは、イボガとイボガインがどこから調達されたものかを知ることができず、現在販売されている製品は出所不明であることを意味します。つまり、名古屋議定書に記載されているように、遺伝資源の利用から得られる利益を公正かつ衡平に配分することを約束したライセンスを持つ合法的なプランテーションからのものではないのです。関係者は、トレーサビリティのあるイボガを生産するプランテーションを作ることが、持続可能で公平なプロセスを作るための不可欠な第一歩であると指摘しています。

この植物は、ガボンの森林に自生している。最近、追跡可能なイボガを栽培しているプランテーションが数カ所出現しましたが、本レポート執筆時点では、イボガを合法的に輸出するための認可を得るための最初のステップである、ガボン政府による認可の手続き中です。したがって、ガボンや世界のどこにも、合法的で追跡可能なイボガ農園は存在せず、現在の国際市場の需要に合法的かつ持続的に対応することはもちろん、成長する市場にも対応できない。

その製品が、言われた通りのものであり、言われた通りの場所で生産されたものであることを確認することは、非常に重要なことです。2020年まで、ガボン産のイボガは原産地を証明することができません。ガボンから出荷されるイボガの大半は、森から密かに収穫され、その過程で植え替えられる保証もないのが実情のようです。これが、現在国際市場に出回るイボガが、すべてこの国から違法に輸出されている主な理由です。

**密猟と違法な市場** イボガの根皮の量やイボガインの濃度は、樹齢や品種、栽培場所、気象条件などによって異なります。平均して、5年目のイボガから約250gの根皮が得られるとされています。樹齢を重ねるごとにその量は増え、より多くの根皮が取れるようになります。そのため、20〜30年前の株では、1kg□2kgの根皮が取れることもあります。ガボンでは、イボガ根皮はガラス瓶に入れて売られていることが多い。1本あたり約350gの根皮が入っており、2020年の平均価格は約50,000CFA（75EUR□90USD）であった。これは1グラムあたり約0.22ユーロ、0.25米ドルに相当する。

海外市場でも価格はまちまちです。野生のイボガを収穫する業者は様々で、そのやり方も様々ですが、カメルーンの違法な人身売買ネットワークの役割が際立っています。これらの密売人は、1株あたり5,000CFAフラン（7.5ユーロまたは9ドル）を支払います。彼らはその金を地元の人々（多くは若者）に提供し、ガボンの森林、それもイボガがよく育つ同国の自然公園で植物を探させる。彼らは一度根こそぎ収穫した木を植え直すことはしない。根の皮から抽出され、カメルーンに持ち込まれると、パッケージングされ、国際的な転売業者に販売されます。

0.50ユーロ/g、または0.60ドル/gです。国際市場では、価格は異なるが、最終的な顧客は平均4.25ユーロ/g、または5ドル/gでオンライン購入する。この数字を参考にする（国際市場で最終的な価格に達するまでにさまざまな仲介業者が入ることもあることを考慮すると）、転売業者にとってこの違法な市場の利益は非常に大きく、85%近いマージンがあることがわかります。

この価格は、イボガの闇市場において、特に需要が高まっていることから、利益が得られることを物語っています。欧米のメディアでは、依存症に効く新しい「不思議な」物質という見出しで報道されていますが□誰がこの製品を供給し、誰が利益を得るのかという中心的な問題との間に断絶があるようです。したがって、ガボンの人々が利益を得られるようなメカニズムで、この市場を規制することがますます急務となっているのです。

リーブルヴィルに拠点を置く野生動物保護団体 Conservation Justice は、保護動物を販売する密売者がイボガを違法に排出していることが判明した事例をいくつか確認しています。そのため、「密猟」という言葉は、この野生のイボガの違法採取にも拡大されることがあり、違法な動物製品の密売とも関連することが多い。

野生生物の違法取引業者や違法伐採業者を何百人も検出していますし、イボガなど今伸びている他の種類の取引との関連も見られます。[E16-L.Mathot\_01:27]

さらに、Conservation Justice と Blessings of the Forest (BOTF) は、カメルーンの密売人が他の違法製品とともにイボガをインターネットで違法に販売しているいくつかの事例を指摘しました。

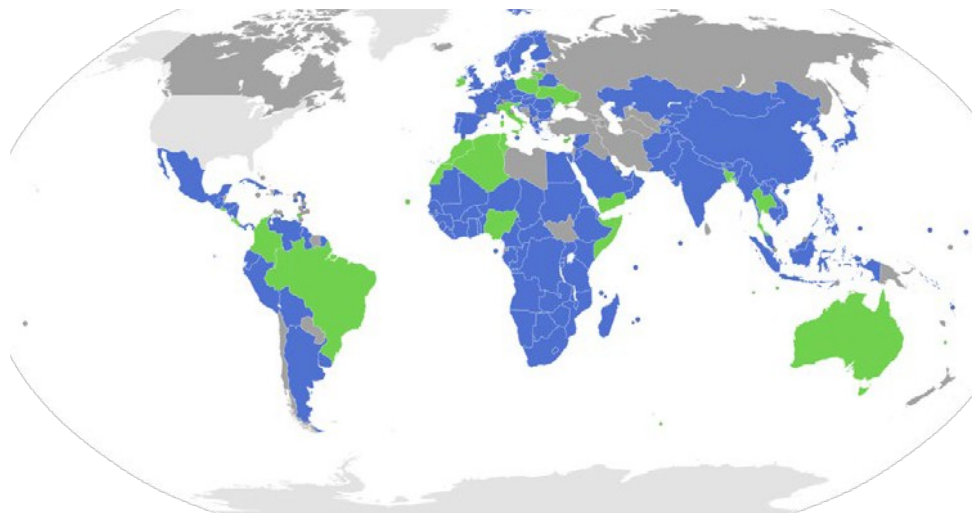


動物の皮、鉱物、保護樹木など。これらの団体は、様々な違法アイテムの取引のリスクを測定する場合、象牙を売ることはリスクレベルが 10 であるのに対し、イボガは 1 であると説明しています。イボガを売ることは利益は小さいですが、リスクが低いので価値があると思います。

**名古屋議定書** 2000 年、ガボン政府はイボガを国宝と宣言し、伝統的な薬や精神的な慣習を尊重する政策の基盤を確立しました。そのため、その使用はガボンの慣習法の下で登録されており、そのため憲法で保護されています。その 10 年後の 2011 年、ガボン政府はイボガとその生物文化遺産を保護するためにさらなる一步を踏み出し、名古屋議定書を批准しました。名古屋議定書は、遺伝資源の利用から生じる利益を公正かつ衡平に配分することを目的とした国際的なメカニズムである<sup>28</sup>。

名古屋議定書は、遺伝的多様性の保全、北と南の技術格差の縮小、生物学的多様性の利用に関連した伝統的ノウハウの利用に対する先住民や地域社会への補償など、いくつかの目的の達成に役立つだろう<sup>29</sup>。

### 名古屋議定書 2014 年署名者



■ 各社  
■ 署名のみで、批准はしていない  
■ 非加盟だが生物多様性条約締約国 非加盟だが生物多様性条約非締約国

*ガボンは、イボガの使用という偉大な秘密を世界に提供しました。そして、今日、地球上のいたるところで、イボガが使用されているのを見ることができます。イボガは、心理的、生理的な多くの病気の解決策として登場します。ガボンから世界へのこの贈り物は、最低限の倫理を課しているのです。[E2-N.Aristide\_14:15]*

この議定書は国際的な行動の基礎となるものですが、その実施のための詳細は、各国の法的枠組みに書き込まれなければなりません。実践されていないにもかかわらず、ガボン政府は名古屋議定書を途上国の勝利とみなしています。

ベネフィット・シェアリングは、欧米では決して優先されるものではありませんでした。そして、このプロトコルを作成するために、私たちは何年もかかりました。ですから、このプロトコルは、言ってみれば、ラテンアメリカ諸国、アフリカ諸国、アジア諸国にとっての勝利なのです。[E17-E. バヤニ\_38:59]。]

しかし、アクセスと利益配分（ABS）が展開するメカニズムは、国内での実施に大きな困難をもたらしている。これらのメカニズムの中には、ABS レジームを設計し適用するための人的・制度的能力が不足していたり、意思決定プロセスに関連する利害関係者が含まれていなかったりと、ABS レジームの内容や発展過程に対応したものもある<sup>30</sup>。

しかし、名古屋議定書の文章が複雑で、あいまいで、論争を呼ぶこともある<sup>31</sup>。

**イボガ輸出の規制**イボガの持続可能性を確保するため、2019年2月4日、ガボン政府は予防措置として、イボガの輸出を一時的に停止する命令を発しました（原料または由来）。この措置は、国際的な需要がイボガの持続可能性やガボンの文化・経済に与えている影響を政策レベルで認めたことを示すものです。ガボン政府は、数年前から市民社会から、イボガの違法取引を規制しないことのリスクを警告する情報を受け取っていた。特に BOTF は、最終的に承認された輸出停止命令の草案を作成する際に口政府を支援しました。

この法的秩序の長期的な意味はまだ明確ではありませんが、最初の措置として、水・森林省（MINEF）は名古屋議定書の要件を遵守するプランテーションにのみイボガ輸出許可を発行することになりました。その内容は、プランテーションが植物のトレーサビリティを証明すること、自国内で合法的に許可された顧客のみに販売すること、地域社会との互惠関係を構築すること、などです。イボガ輸出の一時停止命令が出た1年半後（2020年9月）、政府は NGO（Blessings Of The Forest）と協定の第1号に調印した。このステップにより、2021年からトレーサビリティがあり、持続可能で、生物文化的遺産を尊重したイボガを合法的に輸出する道が開かれたのです。

## コミュニティ・プランテーション

**コミュニティベースの森林管理**ガボンのすべての森林は国家に属しており、歴史的に民間開発のためにその利用を譲り受けてきた。2013年以降、ガボンは持続可能な森林管理の権限を農村コミュニティに委譲する政策を実施しています。その目的は、生活環境を改善し、村の発展を確保しながら、コミュニティによる自然資源の管理を行うことです。今回のフィールドワークでは、BOTF がイボガ植林のパイロットプロジェクトの実施と発展を推進している、そのようなコミュニティを訪問しました。このプロジェクトの概要と、このプロジェクトが示す、自然と一体化した他のコミュニティベースのプロジェクト開発への可能性について、重要な問題点をより深く理解するために、以下に説明します。

オゴウエ・イヴィンド県に位置するエビエン村とエドゥアメニエン村は、ガボン初のコミュニティ林の一つで、面積は1,256ヘクタール、約256人がほぼ森林だけで生活しています。これらの資源は主に農業、非木材林産物（NWFP）の収集、職人漁業、狩猟、伐採、森林再生に関連している<sup>32</sup>。エビエンに足を踏み入れた観光客がまず感じるのは、プラスチックなどのゴミが地面や隣接する森に散らかっていない、非常にきれいな町であることだ。しかし、Ebyeng はそれだけではありません。この町は、ブウィティ族のファング族のコミュニティであり、独自のコミュニティ・アソシエーションによって非常によく組織化されています。

"A2E "アソシエーションコミュニティの土地利権は、2002年10月に設立された法人「A2E Association」によって管理されている。メンバー全員が村の住民である<sup>33</sup>。コミュニティの女性、男性、少女、少年のすべてが、この協会に積極的に参加している。彼らは、この協会の経済運営がオープンで透明性が高いことを誇りに思っている。指導者たちはコミュニティのお金に手をつけることはできず、会計係（常に女性であると彼らは指摘する）の手中にある。また、理事会は、議会に相談することなく決定を下すことはできない<sup>34</sup>。

私たちの協会は本当に組織化されています。協会のすべての決定は、私たち全員が一緒に行います。毎週日曜日に週次ミーティングを行っています。ミーティングでは、その週に何をしたら、何がうまくいき、何がうまくいかなかったかを確認するようにしています。先週の失敗を修正し、次の週にはうまくいくようなことを決めることができます。そして、子供も男性も女性も... 私たちはみんな一緒に協会に参加していて、それぞれが自分の仕事と自分のやり方を持っているのです。[E1-A.Nlo\_04 :14]です。



アグロフォレストリープロジェクトの中で、イボガのプロットがどのように配置されているかを説明するA2E協会会長のババ・エリー氏。©Ricard Faura

イボガ・コミュニティ・プランテーションガボンで実施されているコミュニティ森林管理の枠組みに支えられ、コンサベーション・ジャスティスとBOTFは、イボガ植林のパイロットプロジェクトを開発するために、EbyengとAdouéとA2Eパートナーシップを選びました。この取り組みは、名古屋議定書で定められたガイドラインに則っています。この2つのNGOは、イボガやその他の伝統的な植物の栽培を密猟産業に代わるものにするため、異文化調停の枠組みを使って協力してきました。この目的のために、彼らは地域に根ざしたイボガ農園を開発し、住民に持続可能な選択肢を提供し、将来を考え、合法的な採取と違法な密猟の両方から地域の森林を守るよう鼓舞しています。

彼らはコミュニティフォレストであり、伝統的なコミュニティであり、FAOなどのドナーからすでに資金援助を受けており、パーマカルチャーとアグロフォレストリーというモデルを持っています。パーマカルチャーとアグロフォレストリーというモデルで、すべてが記録され、追跡されています。名古屋の開発にとって、素晴らしいモデルです。[E12-Y.ギニョン\_39:53]。

本稿執筆時点で、A2Eは4,300本（Ebyengで3,300本、Adouéで1,000本）を植樹しています。さらに、近隣のミンコアラ村にある既存の植林地を取り込み、樹齢20～30年の2,000本の苗を植えました（エビエンとアドゥエの苗は2～3年程度）。Minkoualaの植物は、プロジェクトの残りの部分、他の地域の将来の植林地、および関心を持つ第三者に種を提供するための保全プロジェクトの基礎となっています。A2Eは、BOTFとの共同研究の一環として、トレーサブルな植物をフェアトレードの国際イボガ市場で販売する中長期的な計画を持っています。イボガの輸出は最終目的ではありませんが、持続可能な地域開発に投資するための資金調達的手段であり、地元や他地域のイボガへのアクセスを確保するためのものです。

**お役所仕事を断ち切る** 私たちがエビエンを訪れたとき、イボガを国際市場に供給するための準備はほとんど整っていた。しかし、最後の大きな壁は、官僚的な2つのお役所仕事をどう切り抜けるか、だった。まず、協会が政府に期待したのは、植物のトレーサビリティを確認し、そのプロセスの透明性を求める国際市場に合法的に輸出できるようにすることだった。次に、協会は水源森林省（あるいはこれらのプロセスを規制する省庁）からの輸出許可を再要求しました。コミュニティは、この2つの問題について政府からの回答を待っていました。



アドゥエ・イヴィンゴ州エビエンのイボガ・コミュニティ農園で働くA2Eアソシエーションの女性たち。©Ricard Faura

国は、私たちの農園はトレーサビリティがあると言わなければならないのです。国は、A2E協会がX個の成熟した植物を持っているので、X年後にはX個の植物が販売できるようになる、ということを現地で確認しに来なければならないのである。[E11-H.B.Elle\_39:53] です。

輸出許可を得るために、名古屋議定書に基づき、ガボン政府はすべての農園管理組織に対し、サプライチェーンの原産地と目的地の両方で、一定の措置を講じるよう求めています。原産地については、トレーサビリティ、植物の品質、遺伝的品種に関する詳細、資金調達と資源管理の透明性、規制に従った農薬の使用、利益の一部を近隣のコミュニティに再投資することなどについて質問されます。

輸出先については、生産者は輸出に先立ち、最終的な顧客を持ち、その顧客が合法的かつ公正に製品を使用することを証明することが要求され、これにはこの植物の使用の原点である伝統文化を認識することも含まれます。この最終要件には、2つの課題がありました。一方では、イボガの購入を希望する海外のクライアントのほとんどが、自国において違法に、あるいは適切な規制を受けずに営業しています（例：規制されていない解毒クリニック、イボガが違法または規制されていない地域の精神的・霊的な隠れ家センターなど）。一方、イボガやイボガインを使用する多くのクリニックやセンターは、グレーゾーンで活動しているため、必ずしも財務諸表を公にすることを望んでおらず、イボガの伝統的な起源との相互関係を築くことに興味がない場合もあります。

2020年9月、水・森林省とNGO BOTF ガボンは、非木材林産物全般とイボガに関する名古屋議定書の実施について、5年間の協定を締結しました。事実上A2E コミュニティ・アソシエーションは、イボガ分野開発のための公式パイロット・プロジェクトとなる。本報告書の発行時点では、これらのNGOのために原産地証明書と輸出許可証が取得されており、残すは2つのステップのみである。

- " 名古屋議定書で定められた生産とトレーサビリティの要件をすべて満たしていることを確認するため、担当の政府チームが農園を訪問すること。
- " A2E および BOTF-Gabon 協会は、海外の顧客がそれぞれの国への輸出に必要なすべての法的要件を遵守していることを証明するものを示しています。

これらのステップが完了すれば、2021年を目途に、合法的に再生栽培されたフェアトレードのイボガを国際的に販売することが可能になります。

上記の合意には、特にイボガを国際的に販売するためだけでなく、他の非木材森林資源についても、公正で持続可能なコミュニティ・プランテーションを設立するための政府の許可が含まれています。同国南部の4つの村は、水・森林省の支援を受け、BOTF ガボンと長期的な協力関係を開始するための資金援助を受けました。このプロセスは、アフリカの地元市場と国際市場の間に、互惠性の原則を核とした新しいタイプの関係構築の扉を開くものです。

## 大規模なプライベートプランテーション



土壌基質から成長するイボガ苗の赤ちゃん。  
ウオレウ・ンテム県、ピバス。©Ricard Faura



植え替えを待つ若苗のイボガ苗床。Woleu Ntem  
州、Bibasse。©Ricard Faura

プライベート・プランテーションコミュニティ・プランテーションに加え、名古屋議定書の遵守を主張する個人所有・運営のプランテーションも存在します。以下では、この第二のタイプのイボガ栽培のアプローチについて概観する。

この農園の責任者によると、この農園はガボンとイスラエルの資本によるジョイントベンチャーに属しているとのことである。具体的には、同国の大統領府、土地の利権を担当する経営者、イスラエルの大手警備会社の3者が出資しており、ガボンの政府監視・警備システムを統合的に設置・管理する契約を獲得している。

このイボガ農園は、20,000本近くある国内最大の農園になる可能性があり、その数は間もなく34,000本に達する予定です。計画では、ほぼ6ヘクタールの大規模なイボガ農園を耕作することになっているが、これはすぐに倍増する予定である。イボガの家畜化はごく最近のことで、農園の責任者によれば、大規模な栽培方法を理解するには、長年の研究が必要だという。

家畜化のプロセスまず、種子を苗床で発芽させることが、家畜化のための最も重要なステップです。そのためには、この植物にとって理想的な土壌を見つけることが必要です。発芽すると、1つの果実から数本の苗が育ち、屋根付きの格納庫に移され、小さな土の袋の中でそれぞれが別々に育てられることになる。3ヵ月後、苗は慎重に屋外に移植されます。

実は、すべては象のお腹を観察することから始まったのです。象の腹があったからこそ、何が起きているのかがわかり、そのプロセスを理解することができたのです。ピグミー族の人たちが、「密猟者が象を殺した」と教えてくれたのです。密猟者は森で捕まり、当局が象を移動させることを許可しました。そして、象のお腹を開けたのです。すると、中には何が入っていたのでしょうか。手を入れてみると、中はとても熱く、それを調べた結果象の胃袋を通らないと発芽しない植物があるのはなぜなのかがわかりました。そういうわけで、そのビोटープを再現したかったのです。[E18b-H. オンバ\_15:08:58].

アクセスやすく、トレーサビリティも確保できる。そのマネージャーによると、このようなプランテーションには複数の目標があるそうです。まず、合法的にイボガを大規模に栽培することで、イボガを確実に栽培することができると思っています。

ガボンの都市部では、イボガを入手しやすくなり、伝統的な儀式やイニシエーションの実践を確実に保護することができます。第二に、輸出許可が下りれば、この種のプランテーションは国際市場に供給され、野生植物への圧力を減らすことができます。

*最も興味深いのは、私たちが話している販売される素材には追跡能力があるということです。投資家は、公有地ではなく、私有地のプランテーションからイボガを購入するため、一般的に森林から抽出され、追跡不可能なイボガの保護に貢献することにもなります。[E18a-H.Onva\_01:23:26]*

**技術移転を行っています。**このイニシアティブのマネージャーは、名古屋議定書の実施を発展させるための包括的なアプローチについて政府と連携して取り組んでいます。イボガインの抽出を含め、ガボン国内での専門製品の生産に有利なモデルを構築するために取り組んでいます。目標は、ガボン国内でこれらの技術を応用する能力を構築し、これらの製品を国際的に輸出することである。

*イボガ使用に関する法的枠組みの整理の問題は、テーブルの上にあります。それは優先事項ですが、もう一つの側面もあります。なぜ植物を輸出するのか？なぜしないのか  
ここですべてを開発する？例えば、この村では、それを取り上げて外で変身させるのではなく…。西洋がここに技術をもち込んで、私たちがここで工場を改造できるようにしたらどうでしょう？[E18a-H.Onva\_01:12:09]*

**利益の共有。**名古屋議定書に従って、この世界的なビジネスの利益をガボンの草の根コミュニティと共有するためのメカニズムがプロセス全体に含まれる必要があります。

*明日、根皮の購入を希望するパートナーがいれば、この粉末を販売することも可能はずで、その収益、またはその一部を被災地の学校、医療、人々の発展のために使うことを条件とします。[E18a-H.Onva\_01:23:26]*

このモデルのレシピロ要素は期待できそうだ。しかし、問題はその規模にある。野生では、イボガは通常、高く密な木の下で、同じ生態系に生息する他の多くの植物や生物と共存して生育している。ガボンの国土の90%近くが熱帯雨林であることを考えると、このようなことはあまり考えられない。また、伝統的に海岸でよく育つ品種もあり、その場合は森林に覆われることはない。これは、マユンバからガンバにかけての海岸地帯で見られます。

そのため、イボガは広大な植林地として繁栄することが可能です。もし、ガボンが世界に必要なイボガをすべて生産した場合、森林伐採が進み、森林に依存する地域社会や地球規模の気候変動にとって、コストに見合わない結果になるとも言われています。そのため、既存の森林を利用した植林モデルを開発することが重要である。

**アグロフォレストリーの研究である。**IDRC アフリカは、イボガと伝統的な植物の研究と保護に力を注いでおり、薬局方・伝統医学研究所（IPHAMETRA）と共同で、森林環境におけるイボガの家畜化を研究するパイロットプロジェクトを展開している<sup>36</sup>。

*私たちは現在、シバン樹木園にイボガを導入しています。この森は1886年にフランス植民地時代の森林局によって設立され、自然林となったものです。そこで、IPHAMETRAと共同で、IDRC アフリカはこの森に植物を再導入し、キャンピー下で成長したときの状態をモニタリングする予定です。[E18a-H.Onva\_08:56]。]*

アグロフォレストリーの研究は、投資家、消費者、実践者、農民、コミュニティ、イボガ、森林など、関係するすべてのパートが複合的に行動することで、非常に有望なシナリオを提供していることがわかりました。

## アフリカの科学



リブルヴィルの薬局方・伝統医学研究所（IPHAMETRA）の研究室。©Ricard Faura

**現代ガボンの科学**ガボンの熱帯林の膨大な生物多様性を保全することは極めて重要である。ガボンの森は緑の金鉱と言われ、さらなる研究が必要な植物が数多く存在します。地元の科学者たちは、これらの植物の多くに未知のさまざまなアルカロイドが含まれており、治療薬の可能性があると確信している。ガボンには、伝統医療、薬理的あるいは商業的な利用を問わず、この国で植物とその利用法を研究し、そのすべてを世界と共有できる計り知れない可能性を固く信じている科学者がいるのです。実際、ガボンには多様な研究チームがあります。

国立科学研究センター（CENAREST）は、ガボンの国家研究政策を共同で実施する技術機関である。ガボンの研究センターは、地元の天然薬草に含まれる多くの薬草の中から、原料のタベルナンテ・イボガに完全にアクセスでき、イボガインの抽出に必要な専門家や知識も持っています。しかし、イボガインを大量に抽出するための技術的な機器や設備に投資する資金が不足しているのです。

*ガボンには、科学的な研究を行うために必要な体制と人材がいる。問題は、予算がないことです。[しかし、研究はガボンで行われるべきで、特に出版物があれば、それはとても重要なことです。ガボン人がこれに参加することは重要です。...]いずれにせよ、国内でハイレベルな研究を行うことには意欲的です。たとえそれが国際的な機関との提携であっても、ここでやりたいという意欲が重要なのです。[E12c-Y. ギニヨン\_07:17]。*

**伝統的な知識は科学と一致する。**ガボンで行われている科学的な研究は、政府が伝統的な医学・薬学の知識の計り知れない価値を認識する上で一役買っています。ジョージ・ガシタ教授は、ガボン初の



イボガインの研究を行ったガボン人学者（1950年代）であり、パリのソルボンヌ大学医学部から勲章を授与された最初のアフリカ人である。彼は、ガボン人が個人の健康管理のために、森や庭から伝統医療、補完医療、代替医療（TCAM）のための植物を栽培する訓練を受ける「役に立つ庭」のアイデアを提案しました。その後、セナレストは薬局方・伝統医学研究所（IPHA-METRA）を設立し、TCAMを研究・保存・評価すべき知識体系として認識するための大きな一歩を踏み出しました。伝統科学は積極的であり、医薬品を生み出し、それを使用する人々から認識され、尊敬されています。その実践者や学生は、現在、現代科学との連携を図り、植物や伝統、潜在的な治療法についてより深く理解することを求めています。

ガボンの科学分野の一部では、科学は近代的な理論や実験技術の開発に特化した手法や制度を受け継いでいると考えられている。しかし同時に、近代科学はその構想や実践において、伝統的な知識、手順、技術の複雑な体系を統合しなければならないと考えられている。これらは、長い年月をかけて研究され、実験され、世代を超えて伝えられてきたものである。これらの科学者によれば、科学と医学の革新的な前進は、伝統的なエピソードと方法論モデルを考慮した研究であるとのことである。実際、イボガの研究において、生物医学的なモデルと伝統的なモデルの間のギャップは、基本的に方法論的であり、さらに認識論的であり、したがって存在論的でもあります。

*もし私たちが西洋的な観点から研究を続けるのであれば、アフリカでノーベル医学賞を受賞することはないでしょう。私たちが新しい問題、新しい視点に取り組むことで、科学者たちがノーベル賞を探すようになるのです。[E19-H.P.Bourobou\_01:18:52]*

生物医学的モデルは、イボガの研究が生理的・化学的メカニズムの解明を目指すことを前提としているのに対し、伝統的モデルは、植物が物質世界に効果を生み出すメカニズムが精霊の介入に基づくものであることを前提としているのです。

# クローヅングノ ト



## クロージングノート

このプロジェクトから生まれた最も強いメッセージのひとつは、「イボガは、つながりたい人、それを聞くことができる人に語りかけている」ということです。もうひとつの重要なメッセージは、イボガがもたらす恩恵の噂が広まり、何世代にもわたってイボガを管理してきた人々が、世界と共有したいと思う知識をもっているということです。この植物とその精神を何世代にもわたって管理してきたピグミー族とバンツー族は、自分たちの神聖な遺産を世界と共有し、「人類を救うためにここにいる」と断言しています。このメッセージは、もし私たちがこの助けを受け入れるなら、大きな敬意を払い、この神聖な植物との関係を快く分かち合ってくれた人々と本当に互恵的に行動し、私たちが学ぶことができるようにしなければならないという、確固たる要請を含んでいます。

イボガとその主要なアルカロイドであるイボガインは、多様な個人、グループ、サブカルチャーの間につながりを作り、私たちがグローバルなネットワークにまとめ、あなたもその一員であることを自覚しています。もし個人や全世界がイボガから恩恵を受けたいのであれば、植物とそれを支える文化が保護され再生されるよう役割を果たす必要があります。神聖な互恵関係がその行動を導く必要があります。この報告書は、そのためのいくつかの方法を示しており、このような異文化間の関係は、確実に進化していくでしょう。私たちは、個人の幸福が相互に密接に関連していることを長い間知っていました。

最後に、植物、生態系、文化、知識保持者など、私たちが大切にしてくれる人たちを大切にすることの重要性を強調しましょう。この報告書が、イボガの素晴らしい効能と、イボガを保護し尊重するための最善の方法についての理解を深め、対話することに世界中で貢献しますように。

ブウィティに入門した人たちは、"Basse"と言っています。

# 書誌情報 & 脚注



## ビブリオグラフィ

- "アフリボーン。(2009)."オマール・ボンゴ、ラ・フランサフリクのシンボル". *Le Point*, June 8, 2009.[2020年4月7日再掲載] <<https://www.afribone.com/?Omar-Bongo-le-symbole-de-la>>
- " Blessings Of The Forest.(2020).[2020年4月7日取得] <<https://www.blessing-softheforest.org>>
- "Bodeker, G. & Burford, G. (Eds.) (2007). 伝統医療、補完医療、代替医療：政策と公衆衛生の視点. Imperial College Press, Londres, p. 472.
- "世界保健機関 (WHO) の会報。(2008).第86巻第1号、2008年1月号、1-80.[2020年4月14日取得] < <https://www.who.int/bulletin/vol-umes/86/1/07-046458/ja>>\_\_\_\_\_
- "Carayol, R. (2012)."Armée française en Afrique : renégociation des accord de défense, rompre avec la 'Françafrique'". *Jeune Afrique*, May 16, 2012.[2020年4月7日取得] <<https://www.jeuneafrique.com/141652/politique/arm-e-fran-aise-en-afrique-ren-gociation-des-accords-de-d-fense-rompre-avec-la-fran-afrique>>.\_
- "コンサベーション・ジャスティス NGO。(2020).[2020年4月7日取得] <<http://www.conserva-tion-justice.org/CJ/?lang=ja>>.
- "Delourme-Houdé, M. J. (1944). イボガ研究への貢献. *Annales Phar-maceutiques Françaises*.Vol.430, 1946.[2020年4月7日取得] <[https://www.samorini.it/doc1/alt\\_aut/ad/delourme-houde-contribution-etude-iboga.pdf](https://www.samorini.it/doc1/alt_aut/ad/delourme-houde-contribution-etude-iboga.pdf)>
- " Direction Générale de la Statistique (DGS) du Gabon et ICF International.2012.Enquête Démographique et de Santé du Gabon 2012:Rapport de synthèse.Calverton, Maryland, USA: DGS et ICF International.[2020年4月7日取得] <<https://micro-data.worldbank.org/index.php/catalog/1560>>
- "E- ジオポリス (2018年) . Fiche Pays Gabon.[2020年4月7日取得] <[http://archive.wiki-wix.com/cache/?url=http%3A%2F%2Fwww.e-geopolis.eu%2Fafricapolis%2FRubrique70\\_Metadate%2FFICHE\\_PAYS\\_GABON.pdf](http://archive.wiki-wix.com/cache/?url=http%3A%2F%2Fwww.e-geopolis.eu%2Fafricapolis%2FRubrique70_Metadate%2FFICHE_PAYS_GABON.pdf)>.
- "- ファウラ, リカール; ラングロワ, アンドレア (2019) . イボガ・コミュニティ・エンゲージメント・イニシアチブ。フェーズ1報告書。ICEERS.[2020年10月30日取得] <<https://www.iceers.org/iboga-ine-community-engagement-initiative-phase-1-report>>.
- " フェルナンデス, J. W. (2019). *ブウィティ：アフリカにおける宗教的想像力のエスノグラフィ*。Princeton, New Jersey:Princeton University Press, 1982, 731 p..
- "食糧農業機関 (2020a) 。世界森林資源評価 2015 のウェブサイト.2018年12月10日に原文からアーカイブされています。[2020年4月7日に取得] <<http://www.fao.org/3/a-i4808e.pdf>>.
- " 食糧農業機関 -FAO-(2020b).Le développement de la foreste-rie communautaire au Gabon : Cas des Villages Ebyeng - Edzuameniène.[2020年4月7日取得] <<http://www.fao.org/africa/news/detail-news/en/c/1037345>>.
- "Goutarel, R., Gollnhofer, O., & Sillans, R. (1993).イボガとイボガインの薬理学と治療的応用. *Psychedelic Monographs and Essays*, 6, 71-111.
- "Hofnung, T. (June 7, 2009).Avec Omar Bongo, c'est un bout de la Françafrique qui disparaît. *Libération*. [<[https://www.liberation.fr/pla-nete/2009/06/07/avec-omar-bongo-c-est-un-bout-de-la-francafrique-qui-dispa-rait\\_562718](https://www.liberation.fr/pla-nete/2009/06/07/avec-omar-bongo-c-est-un-bout-de-la-francafrique-qui-dispa-rait_562718)>.
- "Kasilo, O. M.; Trapsida, J. M.; Mwikisa Ngenda, C.; Lusamba-Dikassa, P. S. 他 (2010).アフリカ地域の伝統医療事情の概要. *African Health Monitor*, 7-15.
- " Kohek, M.; Ohren, M.; Hornby, P.; Alcázar , M.. y Bouso, J. C. (2020).イボガイン体験。イボガインの急性主観的効果に関する質的研究. *意識の人類学*, 31(1), 91-119.

- "Leeuwenberg, A. J. (1989). *Apocynaceae XXIX, XXX; and Tabernanthe* の一連の改訂。Agricultural University, 89-4, The Netherlands.
- "Lewis-Lettington, R. J.; Muller, M. R.; Young, T. R.; Nnadozie, K. A.; Halewood, M. y Medaglia, J. C. (2006). 遺伝資源へのアクセスと利益配分のための政策と法律を策定するための方法論。International Plant Genetic Resources Institute, Rome, Italy.[2020年4月7日取得] <[https://cisdl.org/wp-content/uploads/2018/04/Methodology\\_for\\_developing\\_policies\\_and\\_laws\\_for\\_access\\_to\\_genetic\\_resources\\_and\\_benefit\\_sharing\\_1150.pdf](https://cisdl.org/wp-content/uploads/2018/04/Methodology_for_developing_policies_and_laws_for_access_to_genetic_resources_and_benefit_sharing_1150.pdf)>.シルベストリ, 2017 に掲載されています。
- "Neffati, M., Najjaa, H., & Máthé, Á.(Eds.)です。(2017).*Medicinal and Aromatic Plants of the World-Africa Volume 3* (Vol. 3).シュプリンガー. 253-256 頁.
- "ムブーツ, チャールズ. (2011)." Hypofécondité gabonaise en question : problème résolu ou mise en jachère d'une préoccupation majeure for le développement du Gabon ".*Gabonica*, Université Omar Bongo, CERGEP, no 5, novembre 2011.
- "ソナー, N. M. (2006).*Histoire du Gabon: des origines à l'aube du XXIe siècle*.Editions L'Harmattan.
- "Metegue N'Nah, N. y Pourtier, R. "GABON", *Encyclopædia Universalis* [Retrieved on April 7, 2020] <<http://www.universalis.fr/encyclopedie/gabon>>
- "オット, J., & ホフマン, A. (1997). ファーマコテオン。*Entheogenic drugs, their plant sources and history*.ナチュラル・プロダクツ・カンパニー
- "ポープ, H. G. (1969).Tabernanthe iboga: 社会的に重要なアフリカの麻薬植物。*経済植物学*, 23(2), 174-184.
- "ラヴァレック, V. & パイシエー, A. (2017). *Bois Sacré: Initiation à l'iboga*.Au Diable Vauvert, 366 p....
- "Rufin, J. C. (2012)."Sarkozy n'a jamais rompu avec la Françafrique".*Jeune Afrique*, March 6, 2012.[2020年4月7日取得] <<https://www.jeuneafrique.com/142652/politique/jean-christophe-rufin-sarkozy-n-a-jamais-rompu-avec-la-fran-afrique/>>
- "サモリーニ, G. (2002).動物とサイケデリック(*Animals and Psychedelics*):*The Natural World and the Instinct to Alter Consciousness* (自然界と意識を変える本能).Simon and Schuster.
- "生物多様性条約事務局. (2011).遺伝資源へのアクセスとその利用から生ずる利益の公正かつ 衡平な配分に関する名古屋議定書。[2020年4月7日取得] <<https://www.cbd.int/abs/doc/protocol/nagoya-protocol-en.pdf>>
- "シルベストリ, L. C. (2017).名古屋議定書。複雑で曖昧で論争的なテキストから生じる課題。*Anuario Mexicano de Derecho Internacional*, 17, 697-716. <<https://absch.cbd.int/database/VLR/ABSCH-VLR-SCBD-208976>>
- "スタッフ, O. (1895).イボガ根。キュー・ブル。
- "Strubelt, S., & Maas, U. (2008).臨死体験。A Cerebellar Method To Protect Body And Soul-Lessons From The Iboga Healing Ceremony In Gabon.*Alternative Therapies in Health & Medicine*, 14(1):30-34.
- "Taylor, W. I. (1965).イボガとボアカンガのアルカロイド(The iboga and voacanga alkaloids).In *The Alkaloids:Chemistry and Physiology* (Vol. 8, pp. 203-235).Academic Press.
- "木材取引ポータル (2016)。森林資源ガボン。[2020年8月16日に取得済み]. <<https://www.timbertradeportal.com/countries/gabon>>
- "世界保健機関 (2001)。伝統医学と補完的・代替的医学の法的地位。*A Worldwide Review*.ジュネーブ。World Health Organization, 2001.[2020年8月25日取得] <<http://digicollection.org/hss/en/d/Jh2943e/4.16.html#Jh2943e.4.16>>.
- "世界資源研究所 (2000)。A First Look at Logging in Gabon:A First Look of Logging in Gabon: A Global Forest Watch-Gabon Report。[Retrieved on August 16, 2020] <[http://pdf.wri.org/gfw\\_gabon.pdf](http://pdf.wri.org/gfw_gabon.pdf)>.
- "Xue, C. C. (2008).伝統医療、補完医療、代替医療：政策と公衆衛生の観点から。*世界保健機関 (WHO) の会報*, 86, 77-77。[2020年4月7日取得] <<http://dx.doi.org/10.2471/BLT.07.046458>>

## フットノーツ

1. FAOa、2020 年。
2. ティンバートレード・ポータル、2016 年。
3. フェルナンデス、1982 年。
4. スタッフォード、2013 年。
5. Goutarel、Gollnhofer、Sillans、1993 年。
6. 世界銀行、2012。
7. Métégué N'Nah and Pourtier, 2020; Mboutsou, 2011.
8. E-Geopolis、2018 年。
9. Samorini、2002 年。
10. WHO は、2008 年の会報 86 巻で、Charlie Changlie Xue (2008) のレビューに基づき、Bodeker and Burford (2007) の提案を採用している。彼らは、特定の形態の伝統医学が、その起源国で実践されるとともに、それらが「輸入」された国でも実践されるという二律背反の状況を指摘している。彼らは、このような伝統療法をグローバルに表現するためには、「伝統的補完代替医療」(TCAM) という用語がより適切であることを示唆している。
11. Kasilo, O.M.; Trapsida, J.M.; Mwikisa Ngenda, C. et al., 2010.
12. Direction Générale de la Statistique (DGS) du Gabon et ICF International.2012.
13. Ravalec & Paichener, 2017; Kohek et al., 2020.
14. 参照 : <https://www.blessingsoftheforest.org>
15. 参照 : <http://www.conservation-justice.org/CJ/?lang=en>
16. World Resources Institute, 2000.
17. Taylor, 1965.
18. フェルナンデス、1982 年。
19. オット、1993 年。
20. Goutarel、Gollnhofer、Sillans、1993 年。
21. Stapf, 1895; Pope, 1969; Leeuwenberg, 1989.
22. このリストは、ソガンガのスピリチュアルマスターであるソゴデットのマガノウ・ヴィンセントとジャン・モイス・ヌイロウから書面で提出されたものです。
23. この分野の Strubelt and Maas (2008)の研究に従う。「臨死体験は、系統的・先天的に古い神経構造や脳波が優位に立った結果であり、皮質が優位でない場合に（超）心理論理的能力を発揮することが許されるようです。大脳新皮質の一部がまだ活性化しており、観察や記憶の実行が可能であれば、その経験は人格の中に統合されることができる。
24. Delourme-Houdé、1944 年。
25. ネファアティ、ナジャヤ、マーテ、2017.
26. Iboga/ine Community Engagement Initiative, Phase 1 Report (Faura & Langlois, ICEERS, 2019) から取得したデータ。
27. Iboga Community Engagement Initiative, Phase 1 Report (Faura & Langlois, ICEERS, 2019)から取得したデータ。
28. 生物多様性条約事務局, 2011.
29. シルバストリ、2017 年。
30. ルイス＝レットン他、2006 年、2 頁。シルバストリ、2017 年において。
31. シルバストリ、2017 年。

32. FAOb、2020 年。

33. *Íbid.*

34. A2E と BOTF は 5 年間の相互協定を結び、後者が T.Iboga の植物が成育するまで資金援助と助言を行い、イボガを最良の価格で販売するための支援を行うことを約束しました。両団体は、最終的な利益を A2E が 70%、BOTF が 30% の割合で分配します。両団体は、名古屋プロトコルの基準に従ってトレーサブルなイボガを栽培し、ガボンの規則で指定された製品を合法的に販売することを約束しました。両組織の契約には、村や作物畑からプラスチックなどの生分解性のないゴミを常に取り除くこと、経済の透明性と説明責任を果たす仕組みを持つこと、精神的な母親と父親の役割を平等に定義すること、適切に植え替えられない場合は森から木を切らないことなど、その他の側面も含まれています。

35. この農園を管理しているのはエルヴェ・オンヴァ氏で、農園全体と生産工程を親切に見せてくれた。

36. IDRC アフリカは、ガボンでは Hervé Onva 氏がコーディネートしています。









[www.iceers.org](http://www.iceers.org)